

2000年度

講義計画

桃山学院大学

講 義 計 畫

圖 信 義 結

國立中央大學

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	井 田 憲 計
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>(1) はじめにパソコン初心者を対象にした基本操作練習を行なう。</p> <p>(2) 経済学の理論や実証分析手法を学ぶ上で必要な予備知識をパソコン演習のなかで習得することをめざす。なるべく多くの経済データに生に触れると同時に、経済理論や統計手法の導入部分となる解説も行う。</p> <p>この講義で習得したことがらは、学生生活においてはもちろん、社会に出てからもきっと必要となり、おおいに役に立つものであろう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>(1) コンピュータに関する基礎知識、Windowsの操作方法、ファイルやフォルダの取り扱いなど</p> <p>(2) タッチタイピングとワープロ</p> <p>(3) 電子メールとWWWブラウザ</p> <p>(4) ホームページの作成</p> <p>(5) 表計算ソフトの基本操作</p> <p>(6) マクロ経済データ 国民経済計算(経済成長率のヒミツ) 産業連関表(経済波及効果って?)</p> <p>(7) 金利・株価・為替など 表計算ソフトでの分析とはじめ</p> <p>(8) データ処理 アンケートのクロス集計 VBAマクロ</p> <p>(9) 確率変数と乱数シミュレーション</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かの課題提出と出席率。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>いろいろ(適宜指示する)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	03 04	通 期 通 期	4単位 4単位	村 松 郁 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、パーソナルコンピュータを利用した実習形式で授業を進める。講義の目的は、様々なマイクロおよびマクロ経済データを実際に「処理」することを通して、経済学で扱われる問題やその分析手法などについての知識を深めることにある。</p> <p>データの処理には、①必要なデータを検索し、抽出する、②抽出されたデータを加工し、分析する、③分析結果を整理し、伝達する等の手順が含まれる。本講義では、データの検索・抽出に関しては、企業財務データやNEEDSのマクロ経済データなどのデータベースを適宜利用する。データの加工・分析、分析結果の整理・伝達に関しては、表計算ソフトやワードプロセッサを組合せて用いる。</p> <p>なお、データの保存用として、3.5インチ2HDのフロッピー・ディスクを2、3枚、持参すること。</p>	<p>[演習計画]</p> <p><リテラシー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに関する基礎知識、Windowsの操作方法、ファイルやフォルダに関する基礎知識、および、それらの操作方法 2. インターネットの利用方法(電子メール、WWW、ホームページの作成方法など) 3. ワードプロセッサの操作方法 <p><MS-Excel></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. MS-Excelの基本操作 5. 経済データ解析の基礎知識(式や関数の利用) 6. 統計データの利用方法(データベース機能、オートフィルタ、ピボットテーブル) 7. 統計的処理の方法(基本統計量、回帰分析) 8. VBAの利用(分析手順の整理とマクロによる処理の自動化) 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義の最初に実習内容についての説明を行い、各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に、毎回、実習結果をレポートとして提出してもらい、その内容で成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>コンピュータに関する参考書は、最新のものを利用することが望ましいので、適宜、紹介する。なお、自分が現在利用している参考書で代替してもらってもよい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指定する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	05 06	通 期 通 期	4 単位 4 単位	吉 川 真 裕
【演習概要・学習目標】 経済学部の特設科目に対応したコンピュータ実習を行うことで、それらの科目をより身近に感じてもらうというのがこの科目の狙いです。しかし、経済学の例題を素材にしてコンピュータ操作に関する知識を深めてもらうという意図もあります。本年度は、前期を基本操作の習得にあて、後期には経済理論や実証分析の中からいくつかのテーマを選んで、データ処理の実際を学んでいくこととします。	【演習計画】 前期 1. コンピュータに関する基礎知識, Windows の操作方法 2. タッチタイピングと電子メール 3. ワープロの基本操作 4. 表計算ソフトの基本操作 5. WWWブラウザとホームページの作成 後期 6. マクロ経済データを用いたデータ処理 7. ミクロ経済データを用いたデータ処理 8. 表計算ソフトとVBAを用いたデータ解析			
【成績評価の方法】 授業態度・課題・試験で決める	【参考文献】 適宜指示する			
【教科書】 ホームページ (http://rio.andrew.ac.jp/~yosikawa)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (外国直接投資と発展途上国)		通 期	4 単位	カ 何 イ 為
【講義概要・学習目標】 世界における直接投資の大部分は先進国間の直接投資であるが、発展途上国の中は特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けていることが成功の秘訣。直接投資は受け入れ国の発展途上国にどのような影響を与えているのか。本講義では中国を中心に考える。	【講義計画】 前期: 直接投資が発展途上国の経済発展に積極的役割を果していることを踏まえて、直接投資の定義から発展途上国におけるその経済的役割に関する理論を講義する。 後期: 中国経済における直接投資のインパクトについて積極的役割を証明を行う。			
【成績評価の方法】 評価は出席、レポートで行う。	【参考文献】 適宜指示する			
【教科書】 内藤 昭(著)『中国の社会経済化と中国経済発展』(学友社)とアノ外を併用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（現代韓国経済発展を中心に）		通期	4単位	ヤン 梁 カンス 官 洙
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p><講義概要></p> <p>韓国はアジアNIEs的経済成長を成し遂げた代表的国として評価されている。戦後から現在に至るまで経済成長システムを中心に韓国経済発展の構造的変化を分析する。植民地支配の遺産、冷戦体制による民族分断、同じ民族同士の戦争、独裁政治、民主化闘争など、複雑で特殊な条件を抱えていながらも経済成長と民主主義を同時に進展させてきた過程と構造について政治経済学的アプローチからその明暗両面に照明を当てて分析し紹介する。</p> <p><学習目標></p> <p>テキストは未定で開講時に決める積もりである。特殊な条件の下で展開されてきた韓国経済の構造的変化について主に理解してもらう。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 植民地支配の遺産と清算 2. 米軍政期の政策と援助 3. 大韓民国樹立と経済政策 4. 朝鮮戦争と被害 5. 経済再建と米国援助 6. 1950年代の初期工業化 7. 軍事政権と経済開発計画 8. アジアNIEs成長モデル 9. 1960-80年代までの経済開発計画の成果と問題 <ol style="list-style-type: none"> 10. 民間主導経済への転換 11. 経済危機と構造転換 12. 韓国はどこに向かっていくのか 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、期末試験を総合して評価</p>	<p>[参考文献]</p> <p>渡辺利夫 編 「概説 韓国経済」、有斐閣</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
<p>経済学特講</p> <p>現代日本産業論</p>		通 期	4単位	富 澤 修 身
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現在の日本産業は、米国の基準とアジア、特に中国の基準が押し寄せる中で、日本の基準のあり方を模索している。一言でいえば、構造調整の渦中にある。この過程で、大企業と中小零細企業の関係の変化、中央集権から地方分権への行政の流れ、日本の労使慣行の変化など大きな変更が利害対立の激化を伴いつつ進行している。</p> <p>講義では、基礎理論を踏まえつつ、構造調整の内容について企業、産業、産業構造の点から論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 分析方法 2 諸問題 <p>第1編 大競争下の産業、企業、産業構造</p> <ol style="list-style-type: none"> I 産業組織の変化——大競争と提携—— II 工業企業の特徴と矛盾 III 変化する産業構造 <p>第2編 大競争時代の日本産業の構造調整</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>富澤修身著『構造調整の産業分析』（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	近 藤 健 司
[講義概要・学習目標] 企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通じて、自らの財政状態と経営成績を把握する。また、債権者・株主・税務当局などに必要な会計情報を伝達する。 本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として初級の商業簿記を講義する。学習内容は、複式簿記の計算原理・計算構造の理解、仕訳の習熟、財務諸表の計算練習、帳簿の合理的な付け方の4点である。 授業に当たっては、簿記の基本的な仕組み理解と計算技術の習得という理論と計算の両面にわたる故に、毎時間、説明とともに、練習問題を多数課して、つとめて実践的に行いたい。積み重ねが必要な科目であるので、極力休まないように努力してほしい。	[講義計画] <前期>Ⅰ 複式簿記の計算原理 (資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合) Ⅱ 複式簿記の計算構造 (取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表・決算Ⅰ) Ⅲ 勘定科目各論 (現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金) <後期>Ⅳ 勘定科目各論 (受取手形・支払手形、その他の勘定科目) Ⅴ 決算Ⅱ (決算整理、8桁精算表、財務諸表〔損益計算書、貸借対照表〕) Ⅵ 帳簿組織 (伝票会計制度→三伝票制、五伝票制)			
[成績評価の方法] 前後期各1回の筆記試験の成績に、課題の提出、出席状況を加味して総合評価する。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定試験3級以上に合格した者には、別途加点評価する。	[参考文献] 新井清光(監修)「日商簿記検定新ワーク・ブック3級」(税務経理協会)			
[教科書] 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著)「現代簿記論」(中央経済社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
民法概論		通 期	4単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標] ある程度の法学的素養というか民法の知識を必要とすると思われる学生のために、民法の全五編について概説する。 講義は、民法の最少必要限の知識を、重点項目において講述し、民法全般について理解ができるように努めたい。	[講義計画] 1, 民法の基本原則 2, 権利能力と行為能力 3, 法人の意義及び種類 4, 法律行為の意義及び性質 5, 有権代理と無権代理 6, 無効と取消 7, 時効制度 8, 物権の意義及び客体 9, 公示の原則と公信の原則 10, 占有権・所有権その他の物権 11, 法定担保と約定担保 12, 債権の発生原因 13, 連帯債務と保証債務 14, 債権者代位権と債権者取消権 15, 契約の成立と効力 16, 不法行為と特殊不法行為 17, 親族の種類及び範囲 18, 婚約と婚姻 19, 協議離婚と判決離婚 20, 認知 21, 養子と特別養子 22, 相続人と相続分 23, 遺言の意義及び方式 24, 遺留分			
[成績評価の方法] 年度末試験を重視し、レポート・出席状況を加味して総合評価する。	[参考文献] 谷口知平・甲斐道太郎(編)『新版 現代民法入門』(法律文化社)			
[教科書] 山本正憲著『概説 民法(改訂版)』(法律文化社) 塩野 宏ほか(編)『ポケット 六法』(有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法概論		通 期	4 単位	吉 見 研 次
【講義概要・学習目標】 この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容については別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されているので、本講義では商法全体の基本的なしくみを解説する。ただ、時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を取り上げることとなる。なるべくわかりやすく説明するように努力したいが、受講者には法律学とりわけ商法学を学ぼうとする意欲が要求されることはいうまでもない。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。教科書、参考文献の使用法その他受講時の留意事項については、最初の授業の際に言及する。	【講義計画】 I 商法の概観 II 会社法 (1)会社の種類 (2)株式会社 ①設立 ②法人成り ③株主 ④株式の譲渡 ⑤株主総会 ⑥総会決議 ⑦取締役 ⑧取締役の責任 ⑨監査役 ⑩新株発行と社債 ⑪計算 ⑫基礎的変更 III 手形法・小切手法 (1)約束手形 ①振出 ②振出時のトラブル ③裏書 ④善意者保護 ⑤流通時のトラブル ⑥支払・不渡等 (2)為替手形 (3)小切手 ①振出等 ②線引小切手 IV 商法総則・商行為法 ①総則 ②商行為法			
【成績評価の方法】 正誤文選択等の短答式の学年末テストを予定している。	【参考文献】 平井宜雄他編『ポケット六法 平成12年版』(有斐閣) 田村諒之輔他編『目で見える商法教材 第2版』(有斐閣)			
【教科書】 岩崎俊他『セミナー商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法		通期	4 単位	前田徹生
【講義概要・学習目標】 Aさんは学校の方針に反して私服通学を続けていたことから、内申書の総合所見欄にどう書かれているのか関心があった。公立高校への受験を控えたAさんはB市の個人情報保護条例に基づいて開示請求を求めたが、B市側はこれを拒否する決定を下した。Aさんは決定の取り消しを求めて裁判所に訴えた。さて、君が裁判長であったら、どういう判断を下すだろうか。 憲法学(法学)を学ぶことの意義は「リーガル・マインド」を養うことにある。それはこうした対立する諸利益や価値とを比較衡量し、法に則りながら一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。	【講義計画】 1) 憲法ガイダンス・憲法学とは? 1 2) 生存権 2) 日本国憲法成立史 1 3) 被疑者・被告人の権利 3) 基本的人権の享有主体 1 4) 第九条の起源 4) 基本的人権の私人間効力 1 5) 平和主義 5) 法の下での平等 1 6) 安保体制 6) 個人の尊重と幸福追求権 1 7) 違憲審査制 7) 思想・良心の自由 1 8) 国会 8) 学問の自由 1 9) 内閣 9) 信教の自由・政教分離の原則 2 0) 裁判所 1 0) 表現の自由 2 1) 地方自治 1 1) 職業選択の自由			
【成績評価の方法】 前期・後期の2回の試験および時々の出席点で判断する。	【参考文献】 佐藤 功『日本国憲法概説』(全訂第五版) 学陽書房 樋口陽一『憲法入門』勁草書房 芦部信喜『憲法』岩波書店 佐藤幸治『憲法』(第三版) 青林書院			
【教科書】 粕谷友介・向井久『青林法学双書/憲法』青林書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門 (編入生用)		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
【講義概要・学習目標】 日本経済が直面する課題を学習し、そこから脱出策および21世紀への日本経済再生戦略について考察可能な目標とし以下の3科目で講義と学習指導を行う。 1. 日本経済の課題 2. 21世紀を拓くネットワーク経済 3. 日本社会と高齢化問題 4. 日本経済を規定する40年体制とはなにか — 日本型経済システム「成長と発展」— 5. 21世紀への経済再生戦略について	【講義計画】 主としてテキストの順序に合わせた授業とする。 あらかじめ受講生に事前学習テーマを課し、各人に学習成果を発表させ、その中心に全員による討議と担当者の論評と指導を実施する。 適宜、時事的問題に関する資料を別途配布して集中討議を行う。 またレポート提出、小テスト等の課題も予定している。			
【成績評価の方法】 出席状況；授業で扱った課題(レポート提出、発表)に対する取り組み、および 期末筆記試験の成績による判定。 1/3以上欠席した者は受験資格を自動的に喪失する。	【参考文献】			
【教科書】 野口悠紀彦著『日本経済再生の戦略』中公新書 —21世紀への海図— (中公論社) ￥660+税				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働経済論		通 期	4 単位	小 川 登
【講義概要・学習目標】 皆さんは、卒業後、労働力商品(生涯賃金は約3億円)を売りつけ、それで生活する賃金労働者になる。3億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうというのは無理なこと。 前期は小川本で、就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々を講義したい。本の中味の多くは、アメリカ合衆国の労働運動理論である。 後期は小池本で、名著の小池和男『仕事の経済学』で、労働経済学全般、とくに熟練の形成について勉強していく。 ほかの商品(たとえば服)には心はないが、労働力商品は「生きた赤いハートをもった商品」である。この商品の特殊性を理解してくれば、学習目標は達成できるのではない。	【講義計画】 (前期) 小川 登『労働組合の思想』を中心に講義する。 (後期) 小池和男教授の名著『仕事の経済学』を中心に講義する。キイとなる概念は知的熟練と長期の競争である。			
【成績評価の方法】 学年末試験。ただ、下記の2冊の教科書は必ず買うこと。	【参考文献】 小川 登(著)「労働経済論の基本問題」(ミネルウア書房) 隅谷三喜男(著)「労働経済論」(筑摩書房) 島田晴雄(著)「労働経済論」(岩波書店)			
【教科書】 小川 登(著)「労働組合の思想」(日本評論社) 小池和男(著)「仕事の経済学」(東洋経済新報社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		通期	4 単位	藤 岡 純 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地方政府は住民に大変身近な政府である。例えば、公立の小学校や中学校は市町村立である。生活道路は市町村道である。また、ゴミ処理は市町村が責任を持つ。</p> <p>このような地方政府の収入と支出について学ぶのが地方財政論である。</p> <p>近年、地方財政は非常に危機に陥っている。財政赤字を地方債で調達するが、その地方債の残高が急増しているからである。住民の財政需要を満たしながら、収入をも確保しなければならない。どのように、財政構造を立て直していけば良いのであろうか？</p> <p>地方財政は、都市と農村では構造が違っている。収入面では、農村へ行くと国からの交付税交付金や補助金に頼っている。都市では、税収の比率が高い。支出についても、例えば、農村部では農林水産業費の割合が相対的に高いが、都市部では教育費の割合が相対的に高い。土木費は、いずれの地域でも高い構成費になっている。地方財政は地域経済と密接な関係のあることが分かる。</p> <p>介護保険の導入などにより、福祉支出がますます重要になってきている。はたして、介護保険は高齢者の必要を満たすのであろうか？</p> <p>このような問題について、考えていきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>下記教科書を平易に解説しながら進める。目次は以下の通り。</p> <p>序章 国際化・地方分権化の中での地方財政論の課題</p> <p>第1章 福祉国家の再現と地方財政――ヨーロッパ・東欧</p> <p>第2章 近代化・民主化と地方財政――東アジア</p> <p>第3章 日本の地方自治と地方財政</p> <p>第4章 地域共同需要の構造と供給システム――予算と経費</p> <p>第5章 地方税制と課税自主権</p> <p>第6章 国と地方の財政関係</p> <p>第7章 地方公共サービスの公私混合経営体</p> <p>第8章 地域類型と地方財政――都市と農村</p> <p>第9章 地方財政と公共事業改革論</p> <p>第10章 環境政策と地方財政</p> <p>第11章 高齢化社会と地方財政</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績と平常点（出席を時々とる）</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小林・遠藤編著『現代地方財政論』（仮題）、勁草書房、2000年4月発刊予定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済開発論		通期	4 単位	望 月 和 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「諦念は、つねに人間の力と新たな希望との源泉であった。人は、死の現実を受け入れ、そのうえに、形ある生命の意義を築き上げた。彼は、失わねばならぬ靈魂をもっており、また死よりも悪いものがあるという事実を諦念し、そのうえに自由を創造したのである。」（K・ボラニー 「大転換」）</p> <p>現在の私たちのライフスタイルが形成されたのは、さほど遠い昔ではない。世紀の変わり目に始まった第二次産業革命がその契機となった。生産力の発展は、私たちに豊かな社会をもたらし、社会の民主化に貢献した。だがこの経済発展は、私たちによいものばかりをもたらしたわけではない。物質的な豊かさは、必ずしも人間に幸福をもたらさず、自由すら人間にとって重荷となった。ファシズムや共産主義を含む全体主義体制はこの第二次産業革命の落とし子といえるのである。いやむしろ大衆民主主義こそが全体主義をもたらしたとさえ言える。</p> <p>本講では、経済発展のもたらした光と影に着目する。過去の経済発展がもたらしたものは、豊かな社会と全体主義であった。他方、今日の経済発展がもたらしたものは、人口と環境への圧力であるといわれる。これらの現象が明日の地球に何をもちたすのだろうか。それは破滅なのか、永続する繁栄なのか。</p> <p>さらに、人類はこのまま進歩し続けるのだろうか。それとも進歩は止まるべきなのだろうか。もはや全体主義は克服されたのだろうか、それとも全体主義の危険は未だ残っていると考えた方がよいのだろうか。物質的な享楽の上に形作られたわが国の戦後民主主義体制に待つものは何か。</p> <p>本講では、経済発展のもたらすこれらの諸問題について、多面的なアプローチで考えていくことにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <p>第一部 経済発展の歴史的意義</p> <p>第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？</p> <p>第2章 進歩思想vs終末思想</p> <p>第3章 大量生産社会の成立とファシズム</p> <p>第4章 現代社会の源流としてのファシズム</p> <p>第二部 環境問題と成長の限界</p> <p>第1章 現代の終末思想としての環境問題</p> <p>第2章 今日の環境問題とその批判</p> <p>第3章 成長の限界</p> <p>第4章 doomsdayers vs cornucopian 成長の限界に対する批判</p> <p>【後期】</p> <p>第三部 人口と経済発展</p> <p>第1章 人口の歴史的動態</p> <p>第2章 今日の人口問題</p> <p>第3章 人口成長と経済発展</p> <p>第4章 人口爆発をめぐる議論</p> <p>第四部 開発政策</p> <p>第1章 開発の目的と貧困問題</p> <p>第2章 発展のための条件</p> <p>第3章 開発政策</p>			
<p>[成績評価の方法] 期末試験の成績のみによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。</p>			
<p>[教科書] 望月和彦 『論考経済開発論』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公共経済論		前期集中	4単位	竹 歳 一 紀
[講義概要・学習目標] 公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、単純な価格メカニズムだけでは解決できない諸問題を経済理論により分析することである。また、そのような問題については政府の介入が必要となるため、適切な政策のあり方について示すことが重要な課題となる。この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。 公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論ⅠA-1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。	[講義計画] 前期 1. 公共経済学の対象 2. 厚生経済学の基礎 3. 公共財と公共投資 後期 4. 外部性と環境問題 5. 所得分配と社会保障			
[成績評価の方法] 前期末試験の成績による		[参考文献] 講義中に指示する		
[教科書] 特に指定しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境経済論		通 期	4単位	浦 出 俊 和
[講義概要・学習目標] ブラジルでの地球サミットの開催や、京都での地球温暖化防止京都会議など、地球環境問題への関心が高まっている。環境庁は、この地球環境問題を、1)オゾン層の破壊、2)地球の温暖化、3)酸性雨、4)熱帯雨林の減少、5)砂漠化、6)開発途上国の公害問題、7)野生生物種の減少、8)海洋汚染、9)有害廃棄物の越境移動、の9つに分類している。これらの環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、従来の市場メカニズムなじまない、あるいはボーダレスであるという特質ゆえに、解決が困難であるとされてきている。しかし、環境問題に対する経済学の役割は重要である。 そこで、本講義では、ミクロ経済学や公共経済学を援用しつつ、環境問題に対して経済学的にアプローチをするとともに、環境政策における有効な経済的手段について検討を行う予定である。	[講義計画] <前期> ・環境問題と経済学 ・市場均衡と社会的総余剰 ・パレート基準と社会厚生基準 ・市場の失敗 ・外部性 <後期> ・外部性の内部化の理論 ・再生可能性資源とゲーム論 ・環境価値の経済評価 ・社会的費用便益分析 ・環境政策にける経済的手段			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績による。		[参考文献] 植田和弘(著)『環境経済学』(岩波書店) 赤尾健一(著)『地球環境と環境経済学』(成文堂) P.-O. ヨハンソン(著)『環境評価の経済学』(多賀出版) ポール・W・パークレイ、デビット・W・セクラ(著)『環境経済学入門』(東京大学出版会)		
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中小企業論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
【講義概要・学習目標】 2000年を迎え、日本の中小企業政策が大きく転換しようとしている。これまでの中小企業全体の底上げから、ユーク企業、ベンチャー企業支援への転換である。そのための社会的、経済的分析の分析を試みたい。また緩和緩和が進捗しつつある。例えば、大店法が廃止され、大店立地法がスタートする。経済的規制から社会的規制への転換である。その意義を検討する。	【講義計画】 1. 経済発展と中小企業 2. 国民経済と中小企業 3. 産業組織と中小企業 4. 中小企業の経営問題 5. 中小企業の金融問題 6. 中小企業の労働問題 7. 技術開発と中小企業 8. 情報ネットワークと中小企業 9. 流通構造の革新と中小企業 10. サービス経済化と中小企業 11. 地域コミュニティと中小企業 12. 国際化と中小企業 13. 中小企業の組織化 14. 中小企業政策の課題			
【成績評価の方法】 前期、後期各1回のレポートと学年末試験の評価を総合化する。	【参考文献】			
【教科書】 藤田敬三・竹内正巳編『中小企業論(第4版)』 有斐閣				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域経済論		通 期	4 単位	芝 村 篤 樹
【講義概要・学習目標】 日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。	【講義計画】 1. 日本近代都市の形成 2. 1920・30年代の都市 3. 都市における戦前と戦後 4. 高度経済成長期の都市 5. 現代都市の課題			
【成績評価の方法】 夏休みレポート、講義時の小レポート、期末試験。期末試験の比重は70%程度	【参考文献】 必要に応じて指示する。			
【教科書】 芝村篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域政策論		通 期	4 単位	寺 中 直 人
[講義概要・学習目標] <p>この講義では、地域政策の中でも特に大都市地域における土地・住宅問題を経済学的に考える。これらの問題は、従来、建築学や生活科学の分野で、住居の物的な構造や住い方の問題として扱われてきた。しかし、上記のようなアプローチだけでは、これらの問題を生み出す土地・住宅市場の性質、市場に影響を与える税制のあり方、また問題の解決に向けて「公共」や「民間」の役割はどうあるべきかというようなことから、適切な答えを与えることはできない。そこで、経済学ではこのような問題をどのように分析するのか、また、分析するためにの道具は何かをまず紹介する。そして、地価は必ず上がるといふ「土地神話」が崩壊した今、土地・住宅問題を解決するための地域政策のあり方を検討する。</p> <p>履修者は、経済学理論の初歩的知識を持っていることが望ましいが、まったく知らない人でも理解できるように、時間が許す限り基礎的なことから（数学的知識も含めて）を復習しつつ、講義を進めるつもりである。ただし、講義に対する「熱意」は不可欠である。</p>	[講義計画] <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーリング 2. 土地・住宅問題の現状 3. 戦後の土地・住宅問題の歴史 4. 地代（1） 5. 地代（2） 6. 地代（3） 7. 付け値地代曲線（1） 8. 付け値地代曲線（2） 9. 地価の理論 10. 地価の決定式 11. 小テスト 12. 小テストの解説 13. 資産市場の分析（1） 14. 資産市場の分析（2） 15. 資産市場の分析（3） <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の土地・住宅税制 2. 土地保有税（1） 3. 土地保有税（2） 4. キャピタルゲイン課税（1） 5. キャピタルゲイン課税（2） 6. 小テスト 7. 小テストの解説 8. 住宅政策の概要 9. 公共賃貸住宅政策 10. 持ち家助成策 11. 家賃補助と所得補助 12. 家賃規制 13. 借地・借家法の経済分析 14. 建築規制の効果 15. まとめ 			
[成績評価の方法] <p>学年末試験の成績を最終的な評価とするが、1、2回小テストを行うつもりである。詳細については授業の中で説明するので、最初と最終講義は、必ず出席しなさい。</p>	[参考文献] <p>本間義人『住宅－産業の昭和社會史5』（日本経済新聞社、1987年） 宇沢弘文・堀内行蔵編『最適都市を考える』（東京大学出版会、1992年） 宮尾尊徳『現代都市経済学』（日本評論社、1995年） 岩田規久男・八田達夫編『住宅の経済学』（日本経済新聞社、1997年） 金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社、1997年）</p>			
[教科書] <p>玉井金五・大森真紀編『社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
農業経済論		通 期	4 単位	浦 出 俊 和
[講義概要・学習目標] <p>近年、我が国の農業を取り巻く状況は、ガット・ウルグアイ・ラウンドの合意や食糧管理法の廃止など、大きく変化してきていると同時に、農業が抱える問題は複雑化している。もちろん、我が国の農業を考える場合、世界の農業の展開も無視できない。つまり、農業問題をとらえるためには、農業のもつ特質、農業・農村の実態、世界の農業情勢を把握することが必要となる。</p> <p>本講義では、まず、これら実態に関する知識を深めることから始め、その上で、経済学、特に、ミクロ経済学の理論を用いて、様々な農業に関する経済現象を分析していく予定である。</p> <p>本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。</p>	[講義計画] <p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界における農業 ・経済発展と農業の特質 ・日本経済における農業 ・日本の農業構造 ・農業経済と農業経営 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産の理論 ・農産物の価格形成 ・日本の農業政策 ・農産物貿易と農業保護政策 ・農産物の流通 ・世界の人口と食糧問題 ・農業と環境 			
[成績評価の方法] <p>学年末試験の成績による。</p>	[参考文献] 荏開津典生（著）『農業経済学』（岩波書店） 土屋圭造（著）『農業経済学』（東洋経済新報社） 庄源寺・谷口・藤田・森・八木（著）『農業経済学』（東京大学出版会） 堀田忠夫（編著）『国際競争下の農業・農村革新』（農林統計協会）			
[教科書] <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
産業構造論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>日本の現在の閉塞状況の基底には、構造的要因—日本の経路の見直し、産業の空洞化、バブル崩壊による逆資産効果など—と景気循環要因が重なっている。これらに対処するには構造改革がおこなわれる。</p> <p>この講義では、各産業、企業で活躍している第一線のエコノミストら、各産業の最新の情報をもとにして、構造的な特徴、問題点、展望を述べていく。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>『産業構造論・資料集』参照</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>1年間を4期に分け、最終1つのテーマ(各期から2)を選んで、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合的に評価する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>桃山学院大学編『産業構造論・資料集』(I),(II) 本学発行</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
銀行論		通 期	4 単位	津 田 和 夫
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>銀行に関する数多くの問題を、戦後の歴史を振り返りながら様々な視点から研究し、現代の金融ビッグバンの理解を深める。</p> <p>研究対象は銀行の基本機能、金融システムの戦後史、金融政策、証券業との関係、公的金融との関係、等が基本になるが、膨大な不良債権、低金利政策の問題点、保護行政の破綻、預金者保護等、国民生活に重大な影響がある課題も集中的に採り上げる。</p> <p>改正日銀法が施行され、金融行政が衣替えし、外国為替管理法が改正(原則的な規制撤廃)され、銀行による投資信託の販売が開始され、証券会社との垣根が低くなり、さらに金融持株会社やインターネット銀行構想が実現の方向にある。こうした環境下金融再編が早いスピードで進行中である。</p> <p>そこで、時事問題も随時採り上げながら、論点の基本を金融資源の適正配分に置き、常時批判と改革の方向を探る。</p>	<p>【講義計画】</p> <p><前期> 教科書1章から3章まで</p> <p><後期> 教科書4章から6章まで</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験、出席状況、中間レポート(随時実施)</p>	<p>【参考文献】</p> <p>津田和夫(著)「巨大銀行の構造」(講談社・現代親書) 日本銀行・金融経済研究所(編)「我が国の金融制度」(日本信用調査) 鈴木淑夫・岡部光明(著)「実践ゼミナール日本の金融」(東洋経済新報社) 堀内昭義著「金融システムの未来—不良債権とビッグバン—」(岩波新書) 津田和夫著、日本の金融制度と銀行経営、桃山学院大学総合研究紀要 24巻3号1999年3月 津田和夫著、抵当証券をめぐる諸問題、桃山学院大学総合研究紀要 25巻1号、1999年9月</p>			
<p>【教科書】</p> <p>津田 和夫(著)「改訂・現代銀行論入門」(経済法令研究会)1999年版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
都市政策論		通 期	4 単位	中 村 征 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「都市は文明の容器である」といわれる。都市は人間の創造物であり、様々な施設、経済機能など客観的なものだけでなく、市民の「共同体的なもの」をも内に含む。すなわち、客観的な機能を管理する市民の「自治の営み」である。講義ではまず、この「市民自治」の構造を論理的に把握することを求める。続いて、その具体的展開である「都市型政治」の理論を整理し、日本における「都市型政治」の足取りに目を向け、今日的課題である「地方自治」の理解を深める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>学生自身が自分の生活の場である空間に目を向け「都市とは何か」と、まず問を発し、そこから自らの課題を引き出し、その理解に向かう「論理」を用意する手助けをしたい。そのため討論形式の活用が心がる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期テスト、あるいはレポートをもって判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市の類型学」マックス・ウェーバー（創元社） ・「都市の文化」ルイス・マンフォード（鹿島出版会） ・「都市経済論」宮本憲一（筑摩書房） ・「政治学史」福田歓一（東大出版会） 			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近代の政治思想」福田歓一（岩波新書） ・「都市の政治学」加茂利男（自治体研究社） ・「政策型思考と政治」松下圭一（東大出版会） 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	01	通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>会社のうち、特に株式会社についての法理制を講義する。株式会社の設立、株式、運営機構、計算、資金調達および基礎的変更についての規制を講義する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期に、設岳、株式まで講義を行う。残りは、後期に講義する。練習問題を解きながら、講義をすすめる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1. 酒巻他5名『テキストブック会社法』(最新版)有斐閣ワックス(有斐閣)</p> <p>2. 『ポケット六法』(有斐閣) *六法全書については、他の出版社のものでもよい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	02	通 期	4 単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法のうち会社法について講述する。『商法概論』でも会社法の基本的なしくみを説明しているが、本講義ではより詳細に会社法の諸問題を解明していきたい。最高裁判例も特に重要なものは紹介検討するつもりである。それだけに多少とも難解な内容になることは避けられないが、学習意欲の強い学生諸君の受講を期待したい。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。教科書、参考文献の使用法その他受講時の留意事項については、最初の授業の際に言及する。	[講義計画] I 会社法総論 (1)会社の性質 (2)会社の種類 (3)法人成り II 株式会社法 (1)設立(設立手続、発起人、設立の瑕疵) (2)株式(株主の権利義務、株式譲渡、株式取得の制限) (3)株主総会(総会決議、総会の活性化、決議の瑕疵) (4)取締役・取締役会(取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任) (5)監査役・会計監査人 (6)資金調達(新株発行、社債) (7)計算(計算書類、資本・法定準備金、利益配当) (8)基礎的変更(合併・営業譲渡、その他の変更) III その他の会社法 (1)有限会社法 (2)合名会社法 (3)合資会社法			
[成績評価の方法] 学年末テストを実施するが、正誤文選択等の短答式にするか、論述式にするかは未定である(できるだけ早く決定し、授業時間中に公表する)。	[参考文献] 平井宜雄他編『ポケット六法 平成12年版』(有斐閣) 田村諒之輔他編『目で見る商法教材 第2版』(有斐閣) その他、授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 岩崎俊他『セミナー商法』(日本評論社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
[講義概要・学習目標] 独占禁止法の概要を講義する。私的独占の禁止、不当な取引制限の禁止、不公正な取引方法の規制、その他を講義する。	[講義計画] 前期に、私的独占の禁止および不当な取引制限の禁止について講義を行う。 後期に、残りの部分について、講義する。最近の審決・判例を参考にしながら、条文の意味を考察する。			
[成績評価の方法] 試験	[参考文献]			
[教科書] 1. 今村 成和著『独占禁止法入門(第4版)』(有斐閣)双書(有斐閣) 2. 今村 成和・厚谷襄児『独占法審決・判例百選(第5版)』別冊ジュリスト No. 141(有斐閣) 3. 『ポケット六法』(有斐閣)※元法全書については、他の出版社のものでもよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較経済体制論		前期集中	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ソ連（ロシア）経済はどんなもの？」ときかれましたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんにがらめに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」＝資本主義のシステムへ移行しつつある最中だ、と。</p> <p>たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、数々の大企業のスキャンダル、倒産、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまう。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか？。それに、社会主義とは本来資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのでは？、ソ連は本当に社会主義だったのか、崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか？等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標として、①旧ソ連の経済体制をどう考えるか、②社会主義とは本来どのようなものか、③わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序 論 「比較経済体制論」とは？</p> <p>第Ⅰ部 社会主義とは何か？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義の基本矛盾 2. 現代資本主義と民主主義 3. 社会主義的将来の本質と発展 <p>第Ⅱ部 ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 十月革命 5. ネップ（新経済政策）の試み 6. 大転換とソ連型経済制度の成立 7. ソ連経済の構造と矛盾 8. 経済改革から「体制転換」へ <p>第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ロシアにおける「体制転換」 10. 未来はどこに 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>資料プリントを頻りに配布します。また、前期集中なので、講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>E.T. ガイダール(上野ほか訳)『経済改革とヒエラルキー構造』(晃洋書房)</p> <p>浅羽・瀧澤編著『世界経済の興亡200年』(東洋経済新報社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しません。しかし、右に示した重要な参考文献とともに、随時参考にするべき文献は指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際金融論		通 期	4 単位	落 谷 硯 児
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>講義は以下の項目につき順次行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国為替および外国為替相場 2. 外国為替市場と為替リスク回避手段 3. 国際収支と為替相場 4. 為替相場決定理論の発展 5. 国際通貨制度およびその変遷 6. ユーロ圏の通貨統合 7. 国際通貨制度の課題と改革案 8. 円の世界国際化について <p>以上による変化する国際金融の全容を理解することを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は外国為替および為替リスク・ヘッジ、国際収支と国際通貨制度等についてテキストの順序にしたがって講義を行なう。</p> <p>後期は為替相場と国際収支、国際通貨制度の理論と歴史、新しい国際通貨システムの展望、の順序で講義を行なう。</p> <p>その間外国為替および国際通貨制度についてビデオによる学習も4～5回行なう予定。</p> <p>それに加えて適宜新聞や経済誌に掲載される国際金融関連記事について時事解説を行なう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、提出レポートおよび期末筆記試験の成績によって判定する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>秦忠夫・本田敬吉著 『国際金融のしくみ』 有斐閣アルマ ¥1800＋税</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経済論		通 期	4 単位	三 邊 信 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引 (trade) つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国 (または2人) および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異 (つまり両国民の間の趣好の差異) があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価値比率 (または分配率) および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験、出席、レポート</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>三邊信夫 (著) 「国際貿易と経済成長理論」 (大阪市立大学経済学会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア経済論		通 期	4 単位	巖 善 平
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>数年前、「21世紀はアジアの時代」という喧伝は日本では盛んであった。しかし、そのアジアは、タイのバーツが下落した1997年7月以降、深刻な通貨・金融危機に見舞われた。一時期、アジア経済の過去が幻のものだという批判は人々の関心を集めたが、1998年後半から、危機に陥ったアジアの国々は経済の再建に着手し、非常に短い間に経済の回復を実現し、再び世界経済の成長を牽引するようになりつつある。</p> <p>アジア経済の成長がいったい何によりもたらされたのか、今回の経済危機はどうして生じたか、今後のアジア経済の可能性は如何なるものであろうか。本講義では、東アジアと東南アジア各国の経済成長と構造変化、経済的な相互依存関係の現状、形成過程と問題点などについて、開発経済学の理論的枠組みに即しながら、分かりやすく解説する。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期レポート+期末試験</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>未定</p>		<p>・国別のことをより詳しく知りたい場合は、「中国経済論」などの受講を薦める。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ経済論(旧欧米経済論)		通 期	4 単位	中本 悟
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。</p> <p>しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有のイデオロギー、行政機構、経済法、経済制度があり、日本やアメリカとは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。この意味では、こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、日本ならびにアジア経済の研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できよう。</p> <p>こうしてアメリカ経済を知ることは、日本経済をいっそう深く知るようになる。本講義では、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について解明する。アメリカ経済の比較制度的な研究を重視するアプローチで講義する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義は、概ね前期と後期とに分けて行なう。各主題とも2回程度の講義である。</p> <p>I 部 アメリカ経済の基本構造</p> <p>① 産業構造と企業経営</p> <p>② 多国籍企業とアメリカ経済</p> <p>③ 軍産複合体とハイテク産業</p> <p>④ 農業とアグリビジネス</p> <p>⑤ 金融市場の発展と金融革新</p> <p>⑥ 財政制度と財政政策</p> <p>⑦ 「ニューエコノミー」論の検討</p> <p>II 部 アメリカ経済の対外経済関係</p> <p>⑧ アメリカの貿易構造</p> <p>⑨ 国際通商法と通商政策</p> <p>⑩ アメリカの貿易匡正法と通商政策</p> <p>⑪ 貿易自由化と貿易調整制度</p> <p>⑫ NAFTAとアメリカ経済</p> <p>⑬ 日米貿易摩擦の歴史と現状</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>夏休み明けのレポートと年度末の筆記試験を総合的に判定する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>横田 茂編『アメリカ経済を学ぶ』(世界思想社)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>前期は、平井・萩原・中本・増田共著『概説アメリカ経済』(有斐閣)</p> <p>後期は、中本 悟『現代アメリカの通商政策』(有斐閣)</p> <p>テキスト通りに講義するので、事前に購入しておくこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国経済論		通 期	4 単位	巖 善 平
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>マスメディアの発達によって、日本における中国の様々な情報が氾濫するほど多くなっている。しかし、中国が近くて遠いという人は決して少なくはない。</p> <p>過去20年間、中国は内部の体制改革と対外開放を国策として掲げ、経済の発展をすべての政策の中心に据えてきた。その結果として、年平均10%近くの経済成長率が遂げられた。また、日本を含む世界各国との様々な関係が一層緊密化している。しかし一方では、急変する中国社会の中に多くの問題や矛盾が目立ってきている。</p> <p>この講義で、現代中国社会、特にその経済の側面に解説の重点を置き、まず中国社会主義経済の成立→運営→改革の軌跡を簡単に触れる。そのうえ、改革開放以来中国の経済発展とその構造変化の諸側面を取り上げ、生の情報を交えながら、解説をしていく。また、講義の理解を深めるため、関連のドキュメンタリーも放映する。</p> <p>この講義を受けることにより現代中国社会の諸相をより深く理解することができよう。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>一. 毛沢東時代の中国経済</p> <p>1. 中国社会主義経済の成立から改革までの軌跡――社会主義改造</p> <p>2. 経済の成長メカニズム――農工関係の政治経済学</p> <p>3. 社会経済の基本的仕組み――国営企業、人民公社</p> <p>4. 社会主義経済を支える制度的基礎――戸籍制度、食糧制度等</p> <p>二. 鄧小平時代の中国経済</p> <p>1. 改革開放のプロセスとパフォーマンス――漸進的改革が良かったか</p> <p>2. 市場経済を担う主役――郷鎮企業、私営企業、外資系企業</p> <p>3. 人口、食糧、資源、環境――中国経済発展の制約か</p> <p>4. 「均富論」から「先富論」への方針転換とその結果――格差はどう見るか</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期レポート+期末試験</p>		<p>[参考文献]</p> <p>渡辺利夫他『毛沢東、鄧小平、とていつ人民』 東洋経済新報社 1999年</p> <p>関志雄編『最新中国経済入門』 東洋経済新報社 1998年</p>		
<p>[教科書]</p> <p>王曙光等『最新教科書・現代中国』柏書房 1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
民法 I		通 期	4 単位	林 錫 璋																								
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日常生活の中で、もっとも関係の深い契約を中心に、契約の種類、契約の解釈、契約の当事者、契約の成立要件、そして、契約の無効と取消、債務不履行による契約解除と損害賠償、代理、無権代理などの問題につき、関連する法令をも含めて、民法の通説的理論及び判例を総合的に解説する。さらに、割賦販売、訪問販売、通信販売、クレジット契約、リース契約など現代的特殊契約の仕組みとその問題点についてもとりあげる。</p> <p>なお、債権の発生原因である不当利得、事務管理、不法行為なども順を追って講述する。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1, 市民法の現代的意義とその変貌</td> <td>2, 私権とその制限</td> </tr> <tr> <td>3, 取引安全の保護</td> <td>4, 時効制度について</td> </tr> <tr> <td>5, 物権的請求権について</td> <td>6, 契約の意義と種類</td> </tr> <tr> <td>7, 契約の内容と解釈</td> <td>8, 契約の当事者と契約の成立</td> </tr> <tr> <td>9, 無権代理と表見代理</td> <td>10, 意思表示の不一致</td> </tr> <tr> <td>11, 瑕疵ある意思表示</td> <td>12, 契約の無効</td> </tr> <tr> <td>13, 契約の取消</td> <td>14, 同時履行の抗弁と不安の抗弁</td> </tr> <tr> <td>15, 危険負担</td> <td>16, 契約の法定解除と約定解除</td> </tr> <tr> <td>17, 債務不履行</td> <td>18, 割賦販売・訪問販売と消費者</td> </tr> <tr> <td>19, リース契約</td> <td>20, クレジット契約</td> </tr> <tr> <td>21, 不法行為による損害賠償</td> <td>22, 過失責任と無過失責任</td> </tr> <tr> <td>23, 交通事故による損害賠償</td> <td>24, 公害と環境問題</td> </tr> </table>				1, 市民法の現代的意義とその変貌	2, 私権とその制限	3, 取引安全の保護	4, 時効制度について	5, 物権的請求権について	6, 契約の意義と種類	7, 契約の内容と解釈	8, 契約の当事者と契約の成立	9, 無権代理と表見代理	10, 意思表示の不一致	11, 瑕疵ある意思表示	12, 契約の無効	13, 契約の取消	14, 同時履行の抗弁と不安の抗弁	15, 危険負担	16, 契約の法定解除と約定解除	17, 債務不履行	18, 割賦販売・訪問販売と消費者	19, リース契約	20, クレジット契約	21, 不法行為による損害賠償	22, 過失責任と無過失責任	23, 交通事故による損害賠償	24, 公害と環境問題
1, 市民法の現代的意義とその変貌	2, 私権とその制限																											
3, 取引安全の保護	4, 時効制度について																											
5, 物権的請求権について	6, 契約の意義と種類																											
7, 契約の内容と解釈	8, 契約の当事者と契約の成立																											
9, 無権代理と表見代理	10, 意思表示の不一致																											
11, 瑕疵ある意思表示	12, 契約の無効																											
13, 契約の取消	14, 同時履行の抗弁と不安の抗弁																											
15, 危険負担	16, 契約の法定解除と約定解除																											
17, 債務不履行	18, 割賦販売・訪問販売と消費者																											
19, リース契約	20, クレジット契約																											
21, 不法行為による損害賠償	22, 過失責任と無過失責任																											
23, 交通事故による損害賠償	24, 公害と環境問題																											
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験を重視し、レポートと出席を加味して総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『新民法教室 I II』（法律文化社）</p>																											
<p>[教科書]</p> <p>谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社） 判例六法編集委員会（編）『コンサイス判例六法』（三省堂）</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																
民法 II		通 期	4 単位	林 錫 璋																
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「民法 I」を終えた者または受講中の者を対象として、物権法・担保物権法を中心に解説する。物権の性質、物権の変動、不動産登記、所有権、占有権、用益物権、質権、抵当権など企業実務や日常生活に関係の深い重要な問題につき、関係諸法をも含めて民法の仕組みと理論及び判例につき説明する。</p> <p>できる限り判例の紹介と分析を取り入れ、また実務上で生じている問題を説明することとし、受講生は実務において法理論がどのように生かされ、関係づけられているかを学ぶようにしてほしい。なお、授業中は必ず六法を常に携帯すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 物権の性質</td> <td>2. 物権の変動</td> </tr> <tr> <td>3. 不動産の公示と対抗要件</td> <td>4. 即時取得</td> </tr> <tr> <td>5. 所有権</td> <td>6. 占有権</td> </tr> <tr> <td>7. 用益物権</td> <td>8. 人的担保制度・物的担保制度</td> </tr> <tr> <td>9. 法的定保物権</td> <td>10. 質権</td> </tr> <tr> <td>11. 抵当権</td> <td>12. 特殊な抵当権</td> </tr> <tr> <td>13. 仮登記担保契約</td> <td>14. 非典型担保</td> </tr> <tr> <td>15. 物権法と債権法の交錯</td> <td></td> </tr> </table>				1. 物権の性質	2. 物権の変動	3. 不動産の公示と対抗要件	4. 即時取得	5. 所有権	6. 占有権	7. 用益物権	8. 人的担保制度・物的担保制度	9. 法的定保物権	10. 質権	11. 抵当権	12. 特殊な抵当権	13. 仮登記担保契約	14. 非典型担保	15. 物権法と債権法の交錯	
1. 物権の性質	2. 物権の変動																			
3. 不動産の公示と対抗要件	4. 即時取得																			
5. 所有権	6. 占有権																			
7. 用益物権	8. 人的担保制度・物的担保制度																			
9. 法的定保物権	10. 質権																			
11. 抵当権	12. 特殊な抵当権																			
13. 仮登記担保契約	14. 非典型担保																			
15. 物権法と債権法の交錯																				
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験を重視し、レポート、出席状況を参考にして総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社）</p>																			
<p>[教科書]</p> <p>甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『新民法教室 I』（法律文化社）</p>																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅱ		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
<p>〔講義概要・学習目標〕 手形法・小切手法の基礎的知識の修得をめざす。手形の振出・裏書・支払、為替手形の特別ならぬに小切手の特別について講義する。</p>		<p>〔講義計画〕 前期で手形の振出に関する様々な問題も考察する。 後期で残りの部分を講義する。講義は、練習問題を解きながら、すすめていく。</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 試験</p>		<p>〔参考文献〕</p>		
<p>〔教科書〕 1. 田中昭雄他5名『テキストブック手形法・小切手法』有斐閣ブックス(有斐閣発行) 2. 『ポケット六法』(有斐閣発行)※ただし、六法全書については、いづかの出版社のものでもよい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法		通期	4 単位	寺田 友子
<p>〔講義概要・学習目標〕 行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開の意義についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。</p>		<p>〔講義計画〕 前期 行政法の基礎的問題 §1 取消訴訟の一つの判決 2 行政と行政法 3 法律による行政法の原理 4 行政組織と行政立法 5 行政救済法の概略 6 行政行為の概念 7 行政手続 後期 行政行為と行政過程 §8 行政行為の種別 9 行政行為の瑕疵 10 職権取消と撤回 11 行政計画 12 行政強制 13 行政調査 14 行政指導</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席いかん、授業時間内に行うテスト等も評価に加味する場合がある。</p>		<p>〔参考文献〕 『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第4版)』有斐閣 塩野宏『行政法Ⅰ』有斐閣 原田尚彦『行政法要論』学陽書房 小高剛『行政法総論』ぎょうせい</p>		
<p>〔教科書〕 藤田宙靖『行政法入門』1996年 有斐閣 『コンパクト六法 平成12年版』(岩波書店)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	01	通 期	4 単位	三 宅 正 彦
【講義概要・学習目標】 古代から現代にいたる日本の歴史を身分制度の展開を中心に追究する。原資料の読解をもとづいて講義を展開する。	【講義計画】 1. 古代律令制国家・王朝国家 2. 中世荘園制国家 3. 近世幕藩制国家 4. 近代天皇制国家 5. 現代民主制国家			
【成績評価の方法】 期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)	【参考文献】			
【教科書】 資料を配布する。ただし、配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加配布や持参することを忘れた人に対する再配布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	02	通 期	4 単位	横 井 清
【講義概要・学習目標】 原始・古代から近代に到るまでの日本史上の重要事件・人物などに焦点を絞りつつ、分かりやすく解説して、主として将来、歴史を教える側に立とうとしている諸君が、先ずは自分自身が日本の歴史を学ばし、意義深さに開眼するように取り運んで行きたいと思う。	【講義計画】 先ず、「歴史の時代区分」についての解説を丁寧に行い、しかるのちに、時代順に「事件」や「人物」を逐って行く。 原則的に毎時間の主題は異なるが、予め提示はせず、科目の性質上基本的に重視すべき問題点をベースにしながらも、時々話題性ある政治・社会・文化の諸問題にも注目して、主題を設定して行く。			
【成績評価の方法】 学年末の筆記試験による。	【参考文献】 各主題に応じた内容の資料プリントを、そのつど配付する。 参考とすべき図書などについては、必要に応じて随時授業の中で紹介する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	坂 昌 樹
[講義概要・学習目標] 社会科教育をする上で必要なものの考え方に、重点を置いた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学ぶのか一緒に考えていきたいと思います。 授業では高校用教科書を使っての模擬授業（前期）や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論をおこないます（後期）。これらへ積極的に参加し、みなさん自身がこの授業を作り上げてください。 学ぶテーマとしては西洋の近・現代史をおもな対象とし、近代化の歪み（ファシズム、排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の問題にも言及しますが、そうした問題の歴史的背景の透視や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。	[講義計画] I. 導入：歴史教育について II. 教育実習に向けて 1. 模擬授業 高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討 III. 過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用） 1. 社会的マイナリティーの歴史 ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者 2. 援助の歴史 戦後補償と経済援助 IV. 歴史教育を考える（ビデオを利用） 1. 歴史教科書と歴史観の問題			
[成績評価の方法] 授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価する。	[参考文献] 『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社			
[教科書] 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史の事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々にも変わることも稀ではない。 この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。	[講義計画] この講義は、教職科目でもあり、将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。 ・担当者の講義 1. 歴史研究の持つ問題性 2. ヨーロッパ中心史観の問題性 3. 現代史をどう解釈するか。 ・模擬授業の実施 担当者の講義のみならず、受講生の模擬授業を積極的に取り入れる。とりわけ、4回生諸君は教育実習を控えているわけであるから、まず4回生から模擬授業を行ってもらおう。 ・ビデオ上映 現代史と歴史学習に関するビデオを観てそれに関するレポートを提出してもらおう。			
[成績評価の方法] 学年末試験及び模擬授業やビデオに関するレポートなどで総合的に判断する。	[参考文献] 参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。 ・栗原 優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策 - ホロコストの起源と実態』ミネルヴァ書房 ・西岡昌紀、『アウシュウッツ「ガス室」の真実』、日新報道 ・ハーバーマス、ノルテ他著、 『過ぎ去らうとしない過去 - ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然地理学	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地理歴史科および中学校社会科の教職科目として自然地理学の履習が必要となっている。本来、自然地理学は多岐の内容にわたっており、教職を履修する文系の学生にとって嫌われる科目の一つであろう。</p> <p>しかし、本講義では、現代社会との関連において、宇宙・地球・生命・大地とは何かを考え、社会人として必要な常識的な自然観や環境観あるいは生命尊重の理念について涵養しうる内容の授業を実施する。</p> <p>地球はいつどこでどのようにできて、今後どのようなようになるのか。</p> <p>地球に人類のような高等な生命体が出現したのはなぜか。それは、限らない偶然に満ちあふれたなかの一つの結果にすぎない。私たちが限りなく尊い生命であり、自然の一部でもあることを認識し、身近な自然環境の大切さについて再発見することを試みたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 太陽系と地球の誕生 2. 水惑星の成立と最初の生命 3. 生物進化の多様性 4. 日本列島の生物相 5. 日本の気候 6. 日本周辺の海洋と海底地形 7. 海底がどうして山になるのか 8. 地向斜造山説の限界 9. プレートテクトニクス説とは何か 10. 日本列島はどうしてできたのか</p> <p>(後期) 11. 日本列島におきる地震 12. 付加体によってできた日本列島 13. 資源はどうしてできるのか 14. 大陸の移動とプレートテクトニクス 15. 地球環境の大変動と生物の絶滅 16. 近畿トライアングル地形構造説 17. 日本列島の自然の特色と日本人の自然観</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履習状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤田和夫『変動する日本列島』岩波新書 黄306 平 朝彦『日本列島の誕生』岩波新書 新赤148 石橋克彦『大地動乱の時代』岩波新書 新赤350 丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波新書 新赤543</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	01	後期	2単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、社会科・地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。</p> <p>高校地理歴史科および中学校社会科の教員免許取得のための教科専門科目です。間違いないように注意して履修してください。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(後期) 1. 地理学と地誌との違い 2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念 3. 地域学習の教材をどのように見出すか 4. ヨーロッパの統合 EUの形成とその課題 5. 旧西ドイツの外国人労働者問題 6. アメリカ合衆国 開拓の理想と現実 インナーシティ問題 7. ラテンアメリカ モノカルチャー経済の悩み 8. オーストラリア 白豪主義の克服 日本による資源開発 9. オセアニア 核実験に抗議する島々の暮らし 10. アフリカ 砂漠化と食糧問題 11. シベリア 開発とその課題 12. アジア NIEs諸国の経済発展</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履習状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中学・高校時で使用した「地図帳」(出版社を問わない)を持参していただければ望ましい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習2 (旧社会福祉援助技術現場実習)	01	通 期	6 単位	上野谷 加代子 (前期) 小西 加保留 (後期) 北野 誠一 大野 定利 坂本 光哉 坪山 孝 松端 克文 安原 佳子 山本 克彦 藤田 満 佐竹 紀美子
	02	通 期	6 単位	
	03	通 期	6 単位	
	04	通 期	6 単位	
	05	通 期	6 単位	
	06	通 期	6 単位	
	07	通 期	6 単位	
	08	通 期	6 単位	
	09	通 期	6 単位	
	10	通 期	6 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 現場体験を通して社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力・技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション(社会福祉現場実習の概略を学ぶ) 2 福祉施設・機関・団体研究(視聴覚学習、現場体験学習、見学実習) 3 専門援助技術実技指導(事例研究・ロールプレイを含む) 4 面接実技指導 5 記録実技指導 6 評価・効果測定実技指導 7 配属実習 8 実習先個別報告と評価 9 業務分析 10 事例研究・実習計画モデル作成 11 実習記録に基づく実習総括レポートの作成 12 個人スーパービジョン(自己覚知)及び集団スーパービジョン 13 全体報告・総括会 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>全出席(学内・学外)が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。</p>	<p>授業時、提示する。</p>			
[教科書]				
<p>授業時、提示する。</p>				

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。ここでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導を受けることになる。すなわち以下の4つの項目である。

①テーマの発見：

社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。

現実の中に問題を発見する方法がまず学ばねばならない。

②情報収集：特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③情報解読：収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。

たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④口頭報告、討論、レポート・論文作成：

解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。

ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での4年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称	社会学科基礎演習
対 象	社会学部社会学科1回生
形 式	ゼミナール
定 員	30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	頁
01	上田 修	現代社会の諸相を考える	231
02	北川 紀男	統計資料にみるわが国の現状	231
03	清水 由文	比較により社会をみる	232
04 05	鈴木 富久	人間形成と現代社会	232
06	津金澤聡廣	宣伝・広告史の研究	233
07	津金澤聡廣	現代文化の諸問題 — 催物研究を中心に —	233
08	中村 秀之	〈近代〉を考える	234
09	西川 一廉	「感情」について考える	234
10	原田 達	「社会」と出会う	235
11	過 放	外国人からみた日本社会	235
12	村山 高康	社会科学の基礎を学ぶ	236
13	木下 栄二	「身の回り」の社会学	236
14	竹中 英紀	生活の場を通して社会学を学ぶ	237

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、社会学部社会学科教育科目の学科選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。

〈日 時〉 4月7日（金） 9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）


〈申込受付〉 学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	01	通 期	4 単位	上 田 修
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによつて、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心によつて文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれによつて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心にまかせるが、採り上げられた問題……例えば、宗教、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容……が社会的にいかにかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスをとおして考える。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>1 班の構成 ①最初に、各自の問題関心にもとづいてグループ化(班構成)をおこなうとともに、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。 2 第1次班別報告 若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から1度に1テーマづつ報告を受け、小グループ(3~4グループ)に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。 3 デイバート 班別の報告・討論が一巡した後、死刑廃止といったような是非の立場がはっきりと分かれるテーマをいくつか設定し、数人ずつに分かれ、パネルディスカッション形式でデイバートをおこなう。(全員がパネルディスカッションに参加) 4 第2次班別報告 デイバートの後、再び各自の問題関心によつて班別構成を再編し(希望者のみ:最初の班構成でもよい)、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによつて徐々にではあれ、多人数のなかでも発言できる力をつけていく。 5 レポートの提出 演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合勘案しておこなう</p>				
<p>[教科書]</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度、指示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	02	通 期	4 単位	北川 紀男
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習は、学問をすることのおもしろさを、さらには社会学を学ぶことのおもしろさを知ってもらい、社会学への動機付けをおこなうことを目論んでいる。同時に、社会学を学ぶ基礎的な素養を身に付けさせることも課題である。演習では、政治・経済・文化にかかわる55項目の統計資料に基づいて、わが国の現状を把握させると共に、この考察を通じて社会的な考え方を身に付けさせたいと考えている。</p> <p>授業では、各テーマごとに担当を決めて報告さ、レポートを提出させる。テーマの内容については、講義計画を参考にされたい。演習科目であるから、報告の準備を怠らないことは言うまでもないが、授業に出席することが先ず第一であり、欠席することは厳に謹んでもらいたい。また、演習中には、積極的に発言するように心がけて欲しい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p><前 期> ①大学生活について ②社会学とは何か ③以下の項目を順次取り上げる 人口、労働、国民所得、エネルギー、資源、農業、林業、水産業、工業、サービス業、食料、商業、企業、貿易、国際収支など</p> <p><後 期> ①前期に続いて、以下の項目を取り上げる 運輸、通信、マスコミ、広告、レジャー、教育、社会保障、保健・衛生、環境問題、災害・事故、犯罪、警察、国防と自衛隊など ②2回生以降の学習計画について</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業での報告、レポート及び出席状況に基づいて総合的に評価する。6回以上欠席した者は、評価対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて、その都度紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>矢野恒太記念会編・矢野一郎監修『日本国勢図会 1999/2000』 1999年(国勢社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	03	通 期	4 単位	清 水 由 文
【演習概要・学習目標】 われわれはテレビ、新聞などのマス・メディア、インターネットのホームページとおして、また実際に外国へ行ったりして、多くの国の社会や文化を知識として持っている。そこで本年度はイギリスの社会との比較をとおして日本の社会との比較をしてみたい。本演習では基本的に特定の社会や文化の理解のために、① いかにか情報を収集するか、② どういう点に問題をしぼるか、③ いかにかまとめるか、④ いかにか報告するか(口頭や書くこと)という作業をとおして進めたい。そして本からの情報だけではなくビデオも出きるだけ使って理解しやすいようにしたい。	【演習計画】 (前期) ① 図書館での資料収集 ② インターネットのホームページによる資料収集 ③ ワ-プロの基礎的練習 ④ 報告レジュメの作り方 ⑤ 報告の仕方 (後期) ① グループでのテキストの報告 ② レポートの書き方 ③ 各自のテーマで最終レポートの作成			
【成績評価の方法】 ① 出席、② 授業での報告、③ レポートで総合評価する	【参考文献】			
【教科書】 授業時に提示する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 人間形成と現代社会	04 05	通 期 通 期	4 単位 4 単位	鈴 木 富 久
【演習概要・学習目標】  人間は環境の産物である。かつてインドで狼に育てられた子が発見された。四肢で走り、動作と情動は狼そのものだった。他面、人間は環境を変えもする。人類史を通じて時代ごとに社会と人間は深い変貌をとげてきた。この変貌をここ70年ほどの間に激動をくりぬけてきた日本の場合において追体験し、現在の人間形成と社会の現実を考えたい。本ゼミは、このため、1930年代以来の代表的な日本映画のなかから青少年を主人公にした名画を時代順に鑑賞し、そうした映画で「社会学する」ゼミである。子どもはつねに時代の社会的現実を率直に写す鏡であった。「ムカツク」「キレル」「学級崩壊」という子どもの姿から、現代日本の社会的現実が浮かび出る。映画から歴史的な変遷をみたらうえて、今日の子どもの広義の教育の諸問題を通じて「人間形成と現代社会」に接近することにする。自己の再認識にも資することを狙いに含む。社会学への導入も狙いである。だから、映画鑑賞で終わらず、その感想の交換、文献研究、討論、等々と多面的に取り組み、論文の書き方を指導する。積極的な学生を望む。	【演習計画】 (前期) 1. 「狼に育てられた子」読後討論。 2. 映画・小津安二郎「生まれてはみたけれど」1932、黒沢明「一番美しく」1944、同「わが青春に悔いなし」1946、今井正「青い山脈」1949、等を観て、戦前・戦中・戦後という時代の転変と人間の生き様を考える。 3. 若干の文献研究と討論 (後期) 1. ビデオ「60年安保と岸信介」、映画・浦山桐郎「キューボラのある街」1962、同「非行少女」1963、同「私が棄てた女」1969、ビデオ「全共闘運動」、映画・山田洋次「学校」1993、等を観て、高度成長期から今日にいたる社会の変動と人間の変容を考える。 2. 文献研究と個人研究報告をへて、学年末の総仕上げの論文作成に向かう。 *ゼミは学生の自主運営を図る。人数によっては班編成をとって討論する。 *ゼミ生の鑑賞感想文はすべてコピーし全員に配布する。			
【成績評価の方法】 出席点、レポート(論文および映画・読書の感想文)、討論およびゼミ活動全般への積極性如何等の総合評価。 *ゼミナールでは無断欠席は認められない。	【参考文献】 ●吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫●ボルトマン『人間はどこまで動物か』岩波新書●アリエス『く子どもの誕生』みすず書房●片岡徳雄『子どもの感性を育む』NHK ブックス●尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』同上●城丸章夫『管理主義教育』新日本出版社●中内・他『日本教育の戦後史』三省堂●柴野・菊池・竹内編『教育社会学』有斐閣●池谷・他『競争の教育から共同の教育へ』青木書店●乾彰夫『現代日本の教育と企業社会』大月書店●E・フロム『自由からの逃走』東京創元新社●リースマン『孤独な群衆』みすず書房●宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫●太田素子『江戸の親子』中公新書●桜井哲夫『「近代」の意味』NHK ブックス●小池直人『デンマークを探る』●加藤恒男編『社会倫理の探究-哲学と社会学の視座から』ナカニシヤ書店●熊沢・清・木本『映画マニアの社会学-スクリーンにみる人間と社会』明石書店●山田和夫『日本映画 101年』新日本出版社/その他は授業中に紹介する。			
【教科書】 シング『狼に育てられた子』福村出版 深谷昌志『無気力化する子どもたち』日本放送出版協会 堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	06	通 期	4 単位	津金澤 聡 廣
【演習概要・学習目標】 研究テーマ「宣伝・広告史の研究」 宣伝・広告の歴史やその研究史の学習を とおして、現代社会における宣伝・広告の 果たす社会的機能やその問題点について 検討を進めたい。	【演習計画】 教科書の内容に添って次のテーマで学習する。 1. 宣伝・広告以前の宣伝・広告活動 2. 政治宣伝と広告活動 3. 広告代理業の胎動 4. 宣伝合戦の先駆的・実力者たち 5. 生活文化革新の演出者 6. 国策家・文筆家の系譜 7. 宣伝・広告研究史の課題			
【成績評価の方法】 平常英(レポート)と学期末試験による総合評価。	【参考文献】 その都度指示する。			
【教科書】 山本武利・津金澤 聡 廣 著 『日本の広告—人・時代・表現—』 世界思想社、1992年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	07	通 期	4 単位	津金澤 聡 廣
【演習概要・学習目標】 研究テーマ「現代文化の諸問題 —催し物研究を中心に—」 現代文化の諸問題とマスメディアが主催 する共催する各種催し物(マスメディアイベント) や盛り場研究など、実際に野外研究(フ ィールドワーク)を加味して調査・研究する。 いわゆる、地域文化研究の一環として位置づ けている。	【演習計画】 まず、これまでのこの領域研究の歴史と現状 について概説を行う。 1. メディアイベント研究とは 2. その具体的な事例研究の検討 3. 盛り場研究の事例とその検討 4. 現代社会におけるメディア文化の諸問題 これらの学習を基礎に、各学習グループ分担に よる、具体的なイベントや盛り場のフィールドワーク を目指したい。〈地域文化の調査実習〉			
【成績評価の方法】 平常英(レポート)と学期末試験による総合評価。	【参考文献】 その都度指示する。			
【教科書】 教科書は特定せず、参考文献を多数学習 する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	08	通 期	4 単位	中 村 秀 之
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>1912年、タイタニック号が沈んだとき、無線通信はすでに船舶間の連絡手段として実用化されていた。氷山と衝突したタイタニック号が遭難信号を打電したとき、短時間で救援に駆けつけられるほど近くを、無線を搭載した船が航行していた。ところが、この船は何もせずそのまま立ち去ってしまった。なぜだろうか？</p> <p>前期は、このような歴史的エピソードを読みながら、現代社会を成り立たせている様々な「メディア」（鉄道、電信、新聞、電話、博覧会、写真、無線、ラジオ放送、映画、広告、テレビなど）の歴史、および関連する近現代史の重要事項を学ぶ。</p> <p>後期は、前期の学習を踏まえて、各自が関心を持つ「メディア」の歴史を調査し、その成果を発表するという形式で進める。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予備的な講義：大学で学ぶとはどういうことか／演習とは何か 資料の探し方／文献の読み方／報告の仕方／レポートの書き方 2 教科書の輪読：要約の報告／関連資料（文献、映像など）の調査／内容の吟味 3 2をふまえて、各自が調査するテーマを決める。 4 調査とレポート作成（夏期休暇中の課題）。 <p>（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 4にもとづく個別報告。 6 年度末個別レポートの作成。 <p>* 状況に応じてグループ作業を交えるなど、適宜調整しながら進める。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、小テスト、レポート、発表、発言などを、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>M. マクルーハン（著）『メディア論』（みすず書房、1987年） W. シヴェルプシュ（著）『鉄道旅行の歴史』（法政大学出版局、1982年） F. キットラー（著）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房、1999年） その他、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>クローリー & ハイヤー（編）『歴史のなかのコミュニケーション』（新曜社、1995年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	09	通 期	4 単位	西 川 一 廉
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>いつの時代でも、多様な人間が集まる社会では、いろんなことが起こる。特に現代社会では、さまざまなことがめまぐるしく起こっている。</p> <p>新聞を広げれば、うれしいこと、悲しいこと、腹の立つこと、嘆かわしいこと、忌まわしいことなど枚挙にいとまがない。特に最近では老若男女を問わず、自分の感情をコントロールできない人が増えているように思うがどうだろうか。たとえば、注意をしたくても逆ギレが怖くてそれもできない。あるいはなぜこんなことで人を殺したり傷つけるのかと理解に苦しむことも多い。</p> <p>当演習では心理学に軸足を置いて、人間の感情に焦点をあてて、現代社会の諸問題を考えてみようとするものである。そのためには自分自身の感情について考えてみることも重要であろう。</p> <p>当演習には、人間心理に関心のある人に応募してほしい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>各自が関心をもつ現代社会の諸問題を持ち寄り、小グループに分かれて討議する。そこでの焦点はその問題にかかわる人間の感情である。そのために、まず基礎知識として必要と思われる感情に関する文献を講読する。</p> <p>グループ討議の結果はレポートにまとめて、クラスで報告する。グループは数回、組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、討議への参加、レポートをもとに総合的に評価する。特に積極的な発言を重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時、指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>未定。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	10	通 期	4 単位	原 田 達
[演習概要・学習目標] 演習のテーマは、<社会>と出会うこと。 解るようで解らないのが<社会>、出会ってないようで出会っているのが<社会>、出会っているのに出会っていることに気づかないのが<社会>。この奇妙なく社会>というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。 まず、語り合うことから始めたい。<語り>の中にすでに<社会>はある。と同時に、<語り方>を身につけよう。 ついで<読むこと>、さらに<書くこと>、そして<観ること>。その度にきみたちは<社会>と出会うことになるだろう。と同時に、社会学の基礎を身につけてゆくはずだ。	[演習計画] まず自らを語ることから始めたい。その語りを他者に伝えること。これが簡単なように見えて、結構むづかしい。ぼくたちは自己呈示(プレゼンテーション)の仕方を知らない。その技法を身につけること。 その次は、「適当」な本を読む。「適当」というのは、「いいかげん」という意味ではない。きみたち自身が「これは！」と感じた本のこと。そこに「社会」を発見すること。 その上で、きみの「社会」との出会いを書く。それは本がもたらした「社会」との出会いだ。こうして準備が整う。 最後に社会を観ること。きみたち自身の感性で人と街、ファッションと振る舞い、行動と雰囲気を観ること。観察眼がやしなわれるだろう。			
[成績評価の方法] 総合的に評価する。とりわけ積極性。	[参考文献] きみたち。			
[教科書] 使わない。きみたち自身が教科書になりうる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 「外国人からみた日本社会」	11	通 期	4 単位	過 放
[演習概要・学習目標] わたしたちは町に出ると外国人によく出会う。日々の暮らしのなかモノ、ファッションのほか、人と人とのふれあいにも「国際化」が進んでいる。もし外国人からみたら日本社会はどうみえるのだろうか。本演習では、そのような視点から日本の社会を考え、大学での勉強の仕方を習得してもらいたい。基本的に問題の提起、資料の収集と整理、レジュメの作成、発表のしかた、レポートの書き方などのプロセスを経て進める。	[演習計画] <前期> 1. 演習を進めていくための予備的な講義 2. 図書館の使い方など資料の探し方 3. 各自の問題関心の明確化 4. 資料の読み方 5. 報告レジュメの作り方 <後期> 1. グループでの報告 2. 報告の仕方と聞き方 3. レポートの書き方 4. 各自のテーマで最終レポートの作成			
[成績評価の方法] 出席、報告、発言、レポートなどにより総合的に評価する。	[参考文献] 随時提示する。			
[教科書] 授業時に提示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	12	通 期	4 単位	村 山 高 康
[演習概要・学習目標] 21世紀を目前にして、日本も世界も大変動の時代を迎えている。この基礎演習では、このような現代世界の政治・経済・社会の現状を理解し分析するための方法や理論について、基礎的な実力をつけることを目指す。各種文献・新聞・雑誌・映像ソフトなどを素材にして、ゼミ生がこれから大学で研究を進めるための方法や手順を学ぶことができるようなプログラムを用意する。ゼミの大きなテーマとしては、「日本はどのような国か」あるいは「日本はどのような歴史を歩んで来たか」を考える。ゼミ生は、自分の問題意識を明確に持ち、積極的に討論に参加することが望まれる。	[演習計画] 1. 日本と世界の現状を理解するための基本知識の修得 2. 各種の文献・新聞・雑誌を読む 3. 現代世界のさまざまな問題についての討論 4. 日本の現在と歴史を考える 5. 研究レポート			
[成績評価の方法] 出席の重視と、ゼミでの積極的な発言や活動を総合評価	[参考文献] ゼミで随時指示する			
[教科書] 朝日・毎日・読売・日経などの新聞を必ず1紙は購読のこと。また『文芸春秋』・『中央公論』・『論座』・『諸君』などの月刊誌や週刊誌なども、必要に応じて購読のこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	13	通 期	4 単位	木 下 栄 二
[演習概要・学習目標] 社会とは何か？ 社会学とは何か？ そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、我々は誰もが社会の中で生きていて、我々がいて初めて社会も存在しうる。この演習では、我々の身の回りの様々な事象（親子喧嘩、恋愛、流行、大阪のお笑い、あるいは大阪人のマナーの悪さ、校則、いじめ、要するに何でもありだ）と社会全体との関わりを追求することで、社会学のイメージと社会学的思考法を学ぶことが課題である。	[演習計画] 状況を見て調整するが、おおむね以下の通り。 <前期> 1. 演習を進めていくための予備的な講義 2. 各自の問題関心の明確化 3. 資料の探索、レジュメ作成の仕方についての講義（この段階でパソコンを利用する） <夏休みの課題：中間レポートの作成> <後期> 4. 中間レポートの報告と討論 5. 年度末レポートの作成			
[成績評価の方法] 中間レポート、年度末レポート、出席、討論内容等から総合的に評価する。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 ——生活の場を通して社会学を学ぶ——	14	通 期	4単位	竹 中 英 紀
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>社会学とは人間の集団について研究する学問である。この演習では、①若干の（読み書き討論に関する）予備学習期間を経たあと、②人間が集団を成して生活しているいくつかの場——家庭、学校、職場、地域など——に即して、③それらの場に働いているさまざまな力——権力、信仰、連帯、差別、闘争など——について考えていくことにしたい。</p> <p>具体的には、各自の関心に応じてグループを編成し、資料収集→レジュメの作成→報告・討論という手順をとる。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（新書、文庫など）の輪読 ・レポートの書き方、質問・討論の仕方 ・各自の問題関心に応じたグループの編成 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの研究発表 （当番グループ以外からは書記、討論者などを出す） ・レポートの作成 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業態度、レポート等によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>それぞれの「生活の場」に関する社会学的な書物のうち、比較的入手の容易な新書・文庫をあげてみた。</p> <p>(家庭) 山田昌弘『結婚の社会学』丸善ライブラリー (学校) 荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』中公新書 (職場) 小笠原祐子『OLたちの〈レジスタンス〉』中公新書 (地域) 本山ちさと『公園デビュー』学陽文庫</p>			
<p>[教科書]</p> <p>野村一夫『社会学の作法・初級編』文化書房博文社 その他、購入を必要とする図書については別途指示する。</p>				

「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	大谷 信介	239	06	谷 富夫	241
02	片桐 新自	239	07	谷 富夫	241
03	片桐 新自	239	08	野々山 久也	242
04	捧 堅二	240	09	藤森 勉	242
05	清水 夏樹	240	10	村上 公敏	243

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、社会学部社会学科教育科目の学科選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。

〈日 時〉 3月22日（水） 9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈申込受付〉 学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	01	通 期	4 単位	大谷 信介
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、日本における都市社会学研究に関する文献を素材として、論文の輪読とそれについての議論をゼミ形式でおこなう。またこの演習では、実証的な研究文献をも対象とするので、クロス集計表の読み方、データ解析の手法についてもふれていく予定である。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>前期は、主としてテキストの輪読と議論に当てる。</p> <p>後期は、都市社会学の実証的調査研究に関する資料や論文のコピー等をもとに、データ解析や方法論についても議論を展開していく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点とレポートによる総合評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>奥田道大編『講座社会学 4 都市』東大出版会 1999年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	02 03	通 期 通 期	4 単位 4 単位	片桐 新自
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>2000年という新しい時代に入り、目が先のことにのみ向かいがちだが、過去をきちんと認識せずに、先のことを考えることもできない。過去は、本の中の知識としてのみあるのではなく、我々の生活のすぐそばにいくらかでもある。このような歴史的意義を持ちつつ今の我々の生活に何らかの関わりを持っている環境を「歴史的環境」として捉えることができる。環境というと、自然環境がクローズアップされることが多いが、歴史的環境も軽視してはならない重要な環境である。</p> <p>本演習では、この歴史的環境とそれをめぐって生じている様々な事象に関して知識を深めながら、社会学的思考力を高めてもらう。</p> <p>文献演習は、少人数クラスなので、議論を活発に行いたい。2回生のためのゼミだと考えてほしい。意欲のある学生の応募を期待している。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>まず、教科書に指定した2冊の本を読破し、その後、授業回数や受講者数、受講者の能力や関心に応じて、やり方を考えていきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レジュメやレポートの出来、発表の仕方、出席、積極性などを総合的に判断して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>片桐新自編『歴史的環境の社会学』新曜社 山下晋司編『観光人類学』新曜社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	04	通 期	4 単位	捧 堅 二
[演習概要・学習目標] 昭和前期日本の政治と国際関係についての知識を深める。 天皇制、2・26事件、南京大虐殺、太平洋戦争の開戦と終戦など現代史の争点を学ぶ。 ウィデオ映像を積極的に活用したい。	[演習計画]			
[成績評価の方法]	[参考文献] 色川大吉『近代日本の戦争——20世紀の歴史を知るために』 岩波書店（岩波ジュニア新書）、¥640 小林よしり『戦争論』幻冬舎、¥1500 斎藤彦『昭和史の謎を追う』上下、文春文庫 寺内大吉『化城の昭和史』上下、中公文庫、¥960 丸山眞男『現代政治の思想と行動』未來社 その他にもあるが、講義の際に指示する。			
[教科書] 江口圭一『1941年12月8日——アジア太平洋戦争はなぜ起こったか』 岩波書店（岩波ジュニア新書）、¥600 江口圭一『体系日本の歴史・第14巻・二つの大戦』 小学館（小学館ライブラリー）、¥951				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	05	通 期	4 単位	清 水 夏 樹
[演習概要・学習目標] サブカルチャーの社会学 習俗や流行現象をはじめとする下位文化の動向について学ぶ。 高度情報化、大衆消費社会の到来にともなうsub-culturalな変貌を扱い、とくに時代の起伏、転換点に照準し、 一、宗教ブームの底流 一、大衆音楽歌謡の変遷 一、その他 をとりあげる。これを主眼とするテーマに各自取り組んでもらう。購読用のテキスト以外に諸文化、思想、映画、演劇、スポーツ等、関連するジャンルの資料を通して意欲的に消化に努めること。戦後50年史をいくつかの角度から顧みる好機でもあり、その間の世代間移行から「時代のリサイクル」への射程のなかで、文化資源—再生力とは何かを考えるきっかけとしてほしい。	[演習計画] 前期、青年世代の今昔とyouth culture、「聖」「俗」「遊」の価値観 — 三極構造とフレーム移行、大衆社会の動態的諸相 sub-cultureにおけることばと情報メディア、メッセージ、記号、バーチャル体験とゲーム感覚 後期、大衆文化と機械的メカニズム、流行歌謡史にみる時代の感受性 — 開放的「前進」基調と情緒的「回想」基調、新旧の競合と時代のリサイクルほか前期の補充と各自のテーマに沿った個別指導に充てる。			
[成績評価の方法] その都度 簡易レポート等を課し、最終評価に参照する	[参考文献] 左記のとおり、随時 示指する。			
[教科書] 「青年文化の聖・俗・遊」（恒星会出版） ただし、これ以外に、各自の選択テーマに関連する参考文献に精通、解説することと要する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	06	通 期	4 単位	谷 富 夫
<p>[演習概要・学習目標] 日本とアジアの様々な地域で今おこっている最新情報をとりこむことが、この講義の目的である。地域社会とは、人がそこに足をつけて生活している具体的な場所のことである。だからここでは、人間と社会のあらゆる問題が具体的な形をとり現われる場所ということができる。この講義では、「地域」を通じて社会学的問題に接近する方法を学ぶことができる。</p>	<p>[演習計画] 授業の進め方は、先1回目の授業で指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席状況、授業態度、報告内容、学期末レポート等を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 授業中に随時指示する。</p>			
<p>[教科書] 鈴木 廣 監修 『地域社会学の現在』(ミネルヴァ書房)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	07	通 期	4 単位	谷 富 夫
<p>[演習概要・学習目標] 社会学の古典に親しむ。社会学に限らずどんな学問でも、古典は学習の出発点であり、また、繰り返し読むに価する知識の源である。しかし古典はとつぎにくく、一人で学習するには困難も多いので、この機会に共同で取り組むことにより、古典を身近なものにしてもらいたい。</p>	<p>[演習計画] 授業の進め方は、先1回目の授業で指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席状況、授業態度、報告内容、学期末レポート等を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 授業中に随時指示する。</p>			
<p>[教科書] エミール・デュルケム (宮島喬訳) 『自殺論』(中公文庫)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	08	通 期	4単位	野々山 久也
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この文献演習の目的は、教科書『家族の内側』を用いて、本書の主題である「家族の内側」において何が起こっており、そのメカニズムとはどのようなもので、どのように作用するのかを、システム理論的アプローチによって理解しようとするところである。</p> <p>本書は、家族を情報処理のシステムとして位置づけ、その処理される情報を距離調節の情報であると説いている。距離調節といえは、空間的距離を意識しがちであるが、本書は、さらに時間的距離とエネルギー的距離を扱っている。ホメオスタシスのメカニズムやフィードバックのメカニズム、それもネガティブだけでなくポジティブ・フィードバックを扱っている。よく知っているはずの家族がこれほどまでに理論的に扱われている文献はない。きっと驚くほど多くを学ぶことになるだろう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>教科書の目次によって以下のように演習を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族システムについての基礎的概念について 2 家族システムの境界維持について 3 空間・時間・エネルギーの次元について 4 閉鎖型・開放型・任意型の類型化について 5 4つの役割演技者のモデルについて 6 家族システムの全体像について 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席の重視は言うまでもないが、演習での報告や発表ならびに意見の発表も重視する。また定期的にレポートの提出も課す予定であるので、必ず提出すること。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>野々山久也、渡辺秀樹 (編)</p> <p>『家族社会学入門』文化書房博文社、1999。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>カンター、レア 著 (野々山久也 訳)</p> <p>『家族の内側-家族システム理論入門-』 垣内出版、1985。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	09	通 期	4 単位	藤 森 勉
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>近年、環境に関するさまざまな問題が大きく取り上げられている。それは、地球規模・国際規模といった大スケールのもから、国内や地域内といった小スケールのもまであり、問題の所在も多岐に及んでいる。従来から、環境と人間の関わり方を問題としてきた地理学にとっては、その実態を把握し解決の方法をみつけるべき努力は重要な課題である。</p> <p>本演習では、さまざまな環境問題を取り上げながら、地理学の基本的なアプローチの仕方について理解させたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>新訂人文地理に掲載されている20編の論文から、各自関心の深いテーマを選んで解説させ、討論によって内容を深めさせる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中の発表・討論・小レポートをもって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>末尾至行・橋本征治 新訂人文地理 大明堂発行</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学文献演習	10	通 期	4 単位	村 上 公 敏
【演習概要・学習目標】 3・4年生対象の地域研究Ⅱの講義と同じ内容になるが、東南アジアという世界の一地域の基本概念とそれにアプローチする際のパラダイムを理解することを目標とする。 とくに2年生対象のこの演習からは、文献の読解力に重点をおき、要旨、要約の書き出し方、それがどのようにこれに関連していくかの頭脳思考の解法にポイントを置くこととする。	【演習計画】 序論から第1章……第5章 終論まで 担当者を決めておいて順を追って輪読し、質疑応答による理解を深める。			
【成績評価の方法】 演習中の発表と出席率、その他 日常の学習姿勢により評価する	【参考文献】 多数あるので 適宜指摘する			
【教科書】 村上公敏(著)『東南アジア地域文化の捉え方』 晃洋書房 1994年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	01	通 期	4 単位	鈴 木 富 久
【講義概要・学習目標】 社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後期は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。 学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。	【講義計画】 【前期】 序. 社会学とは何か 第Ⅰ部. 基礎概念 §1. 社会的存在としての人間 §2. 行為と文化・社会規範 §3. 組織と集団 §4. 「社会化」と国家 *併行して『人間再生の社会学論』を各自読む(各章感想文提出) *夏休み課題: 自分で選択した基本文献のブックレポート 【後期】 第Ⅱ部. 世界社会学の視野と現代日本社会 §1. 世界システム論と受動的革命論 §2. 日本の近代化過程 §3. 戦後日本社会の展開(ビデオ学習) 1) 戦火のあと 2) 飛躍の復興 3) 奇跡の高度成長 4) オイルショック 5) 他2本 *ビデオ感想文提出 §4. 現代日本社会の構造的把握にむけて 夏休みブックレポートの対象文献は『社会学講義ノート [増補・改訂版]』133頁掲載の「ブックレポート課題文献」のなかから各自で1冊を選択する。			
【成績評価の方法】 ①前期・後期試験成績、②レポート成績(論文・読書感想文・ビデオ感想文等)、③出席点、等を総合して評価する。	【参考文献】 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 見田宗介『現代社会の理論-消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』(上・下)早川書房(文庫版あり) 渡辺治『「豊かな社会」日本の構造』労働旬報社 宮本常一『忘れられた日本人』(岩波文庫)岩波書店 社会学の専門辞典は必需である。推薦: 浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。 その他、教科書『社会学講義ノート』132-133頁参照。			
【教科書】 鈴木富久『社会学講義ノート [増補・改訂版]』 小林・他『人間再生の社会学論』創風社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	11	通 期	4 単位	北川 紀男
<p>[講義概要・学習目標] この講義は、これから社会学を本格的に学ぼうとする人々にとって、文字通り基礎的な知識を提供することにある。そこで先ず、社会学とはどういう学問であるのかを、その研究対象、考え方、その学問的特徴を概説することから始める。その上にたつて、家族、地域社会（農村と都市）、職場（会社と組織）と云った具体的な日常生活の場を取り上げて考察する。ついで、激しく変動する現代社会を捉える視点として社会変動の問題や、社会調査をはじめとする社会学の研究方法に触れるつもりである。</p> <p>この講義は、はじめて社会学を学ぼうとする者にとって、道案内的な役割をも担っており、ここでの学修の成否は、社会学部での4年間の成果を左右する極めて重要な意味をもっているため、特に心して受講して欲しい。</p>	<p>[講義計画] <前 期> ①社会学とはどういう学問か ②社会学の研究対象 ③社会学的な者の見方 ④家族 ⑤農村 ⑥都市 <後 期> ①職場 ②組織 ③労働 ④社会変動 ⑤社会調査 ⑥社会問題</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期末及び後期末のテスト、レポート、出席状況に基づいて総合的に評価する。講義時間数の3分の1以上を欠席した場合には、評価対象としない。</p>	<p>[参考文献] 講義中に適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 秋元律郎・石川晃弘・羽田新・袖井孝子著『社会学入門（新版）』1995年（有斐閣新書）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義 社会学の基礎理論と社会的現実	12	通 期	4 単位	鈴木 富久
<p>[講義概要・学習目標] 社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者の諸理論の学習を課す。後期は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。</p> <p>学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学問的関心の喚起にある。この目標達成のため、レポート・感想文等の提出物が多いし、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。</p>	<p>[講義計画] 【前期】 序. 社会学とは何か 第1部. 基礎概念 § 1. 社会的存在としての人間 § 2. 行為と文化・社会規範 § 3. 組織と集団 § 4. 「社会化」と国家 *併行して『人間再生の社会理論』を各自読む（各章感想文提出） *夏休み課題：自分で選択した基本文献のブックレポート</p>			<p>【後期】 第II部. 世界社会学の視野と現代日本社会 § 1. 世界システム論と受動的革命論 § 2. 日本の近代化過程 § 3. 戦後日本社会の展開（ビデオ学習） 1) 戦火のあと 2) 飛躍的復興 3) 奇跡の高度成長 4) オイルショック 5) 他2本 *ビデオ感想文提出 § 4. 現代日本社会の構造的把握にむけて</p>
<p>[成績評価の方法] ①前期・後期試験成績、②レポート成績（論文・読書感想文・ビデオ感想文等）、③出席点、等を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献] 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり） 渡辺治『「豊かな社会」日本の構造』労働旬報社 宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店 社会学の専門辞典は必需である。推薦：浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。その他、教科書『社会学講義ノート』132-133頁参照。</p>			
<p>[教科書] 鈴木富久『社会学講義ノート [増補・改訂版]』 小林・他『人間再生の社会理論』創風社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	13	通 期	4 単位	中 村 秀 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、社会学的思考のレッスンの場としてデザインされている。出発点は少数の基本語彙。例えば「社会」、「個人」、「近代」、「恋愛」など…。いずれも、明治になってから西語を翻訳するためにわざわざ造られたものだ。言葉がなかったということは、それに対応する現実がそもそも存在しなかったということ。だからといって、言葉を造れば現実もすぐに生まれるかというゲンジツはそんなに甘くない。しかし他方で、モノの考え方は言葉によって大きく左右される。その結果はアタマとゲンジツのギャップ。こうした事態は、現在に至る近代日本の歴史にとって大きなイミを持ってきた。</p> <p>もとの西語と日本における翻訳語の成立を検討し、言葉がそのなかで意味あるものとして用いられる社会・文化的状況を具体的に比較・考察することで、「社会学的にモノを考える」ための土台造りを行う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>例えば、①「近代」という翻訳語の成り立ち、②“modern”の原義、③西欧社会における“modern”の概念、④「近代」の社会学的意味、⑤日本における「近代」の概念、⑥関連する具体的な諸問題…、といった順序で、各基本語彙・概念について考察してゆく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①授業中に実施する小テスト、②前期末試験、③夏期レポート、④学年末試験、以上によって総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>内田義彦（著）『社会認識の歩み』（岩波新書、1971年） その他、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柳父 章（著）『翻訳語成立事情』（岩波新書、1982年） その他、プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	14	通 期	4 単位	原 田 達
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>理論的で難しい話はしないし、できそうもない。何ごとにつけ理論的「基礎」は最後にやった方がいいと思っている。むしろ初学者には興味をひく話を。</p> <p>そこでここでは、暴走族や結婚披露パーティ、テレビ・ドラマやタレントの人気投票、市民マラソンや山盛り、就職戦線の心理や豪華な産婦人科病院などを例にして、「社会」を解読することを試みたい。日常的で小さな出来事の解読から社会学にいたることができる。初学者には、その醍醐味こそが社会学を学び、社会学を实践しようとするための「基礎」となるだろう。</p> <p>この講義は「出来事社会学」への招待であり、社会学のイントロダクションをめざしている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>「講義概要」で述べたとおり、いくつかの出来事を例にして講義をおこなう。取り上げるテーマは次のとおり。</p> <p>暴走するところ、儀式の消費、宙づりのことば、タレントの香り、「ねば」と「たい」、走るところ、「リクリエーション(再生)」の意味、生命とモード、等々</p> <p>聴くだけでなく、刺激を受けてくれることを期待します。そして、その刺激がきみたちの(「社会学的」)行動に影響を与えることを希望します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験をします。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の中で指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ありません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	1 5	通 期	4 単位	過 放
[講義概要・学習目標] 社会学は、わたしたち生活している家族のような小さな集団から国家のような大きな集団まで研究対象にしている。その対象は広範囲でなかなか理解しにくい一面がある。本講義では、いろいろな角度から社会現象をとらえ、社会学の基礎知識を理解させるようにする。さらに現代社会の変動に伴って生じる多様な社会問題を具体的に検討していきたい。	[講義計画] ＜前期＞ 社会学を社会、文化、行為、規範、習俗、地位、役割、社会、集団、家族などの基礎概念から明らかにする。 ＜後期＞ 地域社会、社会変動、エスニシティなどを見ていく。			
[成績評価の方法] 出席、小テスト、レポート、前期・後期試験等により総合評価する。	[参考文献] その都度提示する。			
[教科書] 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	1 1 1 2	通期 通期	4 単位 4 単位	木下 栄二
[講義概要・学習目標] 本講義では、観察法、アンケート法という二つの調査技法の実践を通して、主に数字の形で社会的現実を捉える調査法の修得を目標とする。講義では、まず社会調査の歴史、社会調査と社会理論の関係、社会調査の論理などを説明したのち、最も基礎的な調査技法である観察法について実習してもらうことになる。後期は、現在の社会調査の主流をなすアンケート法とその統計的解析の技法について実習してもらうことになる。実習の成果は、いずれもレポートとして提出してもらい、成績評価の重要な要素となる。 本講義の特色は、前期・後期ともグループ作業による実習が授業の大半を占める点である。このため、出席および授業態度は極めて重要な成績評価の基準となることを受講生全員が肝に命じておいてもらいたい。	[講義計画] （1）社会調査への招待（4～5月）： 社会調査とは何か、社会調査の歴史、社会調査と社会理論の関係、社会調査の論理などを説明する。やや退屈な講義となるかも知れないが、社会調査の実践および調査結果の正確な解釈のためにはとても重要なことなので、我慢して聞いてほしい。 （2）観察法の学習と実習（6～7月）： 社会調査のネタは我々の身の回りに幾らでもある。我々が五感で感じることを整理することが社会調査の第一歩である。そこで、前期は観察法という技法の学習と実習を行う。実習の成果は、夏休み前までにレポートとして提出してもらう。 （3）確率論の基礎知識の習得（9～10月）： 現在の社会調査の中心である統計的解析法の基礎である確率の初歩的な知識について説明する。 （4）アンケート調査の学習と実習（11～12月）： 調査票の作成、データの収集、データの解析等についての学習と実習を通して、アンケート調査法および統計的解析法を学ぶ。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。			
[成績評価の方法] 前期レポート、後期レポート、後期試験の3つが、それぞれ同じウェイトで成績評価の対象となる。そのほか出席点、自由課題レポート点なども加算して総合点で判断する。詳細は最初の授業にて説明する。	[参考文献] S・ウェッブ、B・ウェッブ（川喜多訳）『社会調査の方法』東京大学出版会 G・イーストホープ（川合・霜野訳）『社会調査方法史』慶応通信 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書 P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館 原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会			
[教科書] 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武（編著） 『社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	13 14	通 期 通 期	4単位 4単位	過 放
[講義概要・学習目標] テレビや新聞のニュースを見るとき、社会調査のデータがしばしば発表されている。しかもパソコンの普及に伴い、その使用率はますます高まっているのが現状である。これらのデータはいったいどのように作り出されているのか。あるいはその信頼性はどのくらいあるのかと考えたことがあるだろうか。 本講義ではこれらの素朴な疑問を解答し、社会調査の意義と基本的技法について解説していきたい。そしてグループ単位で簡単な作業実習を体験することにより、社会調査の基本を身につけてもらう予定である。	[講義計画] <前期> 社会調査とは何か、社会調査と社会理論の関係など社会調査の意義と基本的な考え方を理解した上で、社会調査の基本ルール、問題意識と仮説、調査の企画と質問文の作成及び集計方法などについて勉強する。 <後期> 調査票の作成、データの収集、データの解析などについて勉強し、グループに分けて実習する。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。			
[成績評価の方法] 前期レポート、後期レポートと出席状況などを総合して評価する。詳細は最初の授業にて説明する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	15	通 期	4単位	竹中英紀
[講義概要・学習目標] 新聞やテレビのニュースを見ると、「これこれの意見を持つ人が何パーセント」というふうに、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。 社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。 この授業では、社会調査の意義と基本的な技法について解説し、あわせてグループ単位・個人単位でのかんたんな作業実習を体験してもらう予定である。	[講義計画] 原則としてテキストの内容に沿って授業を行なう。前期・後期それぞれのポイントは以下のとおりである。 (前期) ・社会調査の意義と基本的な考え方 ・問題意識と仮説(独立変数、従属変数) ・調査の企画と質問文の作成 (後期) ・サンプリングの理論と方法 ・データの整理とチェック ・単純集計とクロス集計、統計的検定			
[成績評価の方法] 筆記試験の結果と出席状況を総合して評価する。	[参考文献] いわゆる「アンケート調査」を中心とするこの授業では十分に触れられない隣接分野の参考文献として、次の3点を紹介しておく。 ・田代菊雄編『新版 大学生のための研究の進め方・まとめ方』大学教育出版 ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会			
[教科書] 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学原論		通 期	4 単位	宮 本 孝 二
【講義概要・学習目標】 社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を、体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析や、社会学史上に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。 したがって、社会学原論は社会学史と内容的に大きく重なる。しかし、社会学史のように時系列的に多様な社会理論を紹介し発展の軌跡を描くのではなく、設定された一般理論の問題に現時点でどうかかわるかという視点からそれらを取り上げる。 また、社会を一般的に問うことは、社会を全体的に問うことに接続していかざるをえず、マクロな変動論を媒介として社会学原論と社会を全体的に把握することを目指すという意味での現代社会論が統一的に把握されることになるので、それについても解説したい。	【講義計画】 以下の順序で講義する。ただしテーマごとに回数は異なる。 1 社会学原論とは何か 2 相互行為の4つの側面①コミュニケーション 3 相互行為の4つの側面②サンクション 4 相互行為の4つの側面③エクステンジョン 5 相互行為の4つの側面④コンフリクト 6 構造と内容規定と相互行為との関連づけ 7 構造という視点：構造機能主義と構造主義 8 場と全体にかかわる論点 9 主体としての組織と個人 10 実践とパワー 12 社会学原論の形成：ギデンズの場合 11 運動と変動 13 社会理論の諸相：現代の社会理論家たち			
【成績評価の方法】 原則として後期試験によってのみ評価する。ただし、授業内に実施するまとめのテストと、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書くものなど）によって若干加点する。	【参考文献】 その都度指定する。			
【教科書】 宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1998年、八千代出版） 現代イギリスの、というよりは現代世界の代表的社会学者アンソニー・ギデンズの世界社会論の全体像をまとめ、社会学原論と現代社会論の可能性を探究している。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学史		後期集中	4 単位	竹 内 真 澄
【講義概要・学習目標】 社会学史とは、社会学の歴史のことである。だが、歴史とはけっきょく現代から振り返った歴史であるから、古いものから新しいものへと辿るというやり方はとらない。 最初にまず、私たちが生きている20世紀後半の日常生活の諸局面を社会学がどう見ているかについて考える。そのうえで、20世紀後半の現実が、18世紀以来の社会学的思考において発見されたものの濃縮であり、絡み合い、あるいは反発であることを見る。 重要なことは、かつては大思想家とか達人と呼ばれる少数の人々によってしか見通すことしかできなかったことが、今日では近・現代社会の発展そのものによって、普通の生活者にとってより実感できるものへ、より把握しやすいものへと変わったことである。家族、性、学校、企業社会、世界システム、情報化、消費化など私たちの生きる場に見えるのは、要するに<近代>の煮詰まった姿であろう。<近代>を発見し、批判し、再提起したのは、スミス、マルクス、そしてウェーバー的な思考様式であった。いま世紀の転換期を迎えて、これら三つの思考が、それぞれに強い光を放っているように思われる。これらの三者が見据えた社会の複数の局面が互いに攻めあっていることを原理的に考えてみたい。	【講義計画】 <前半> 私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、性、学校、会社、国家、コミュニケーション、世界社会、日本人といった現代的な問題領域を一つ一つ取り上げて、その領域をめぐる社会学者たちの対抗を比較的に考察する。ここではエンゲルス、フェミニズム、ドーア、パーソンズ、ミード、デュルケイム、ハーバーマス、ウーラーズティン、戦後日本社会科学等を扱う予定である。前期の結論は、これらの身近な問題領域が結局のところすべて<近代>という巨大な深層から派生してきた表層であるということである。 <後半> 前期に見た成果を踏まえると、問題の根源は<近代>とはいったい何かというところへ絞り込まれていった。ところで、<近代>に対する社会認識は18世紀以降三つの立場に分化していく。三つの立場を基礎的に、A・スミス、K・マルクス、M・ウェーバーによって代表させることができる。これら三者の社会理論を私たちが今日的にどう受け止めるかに課題が存在する点を後期の中盤総括とする。最後に、前期に扱った表層的現実と直接つながる問題構成が世界戦争論（レーニン）と社会心理学（フロム）にあることに触れ、年間の円環は閉じられる。			
【成績評価の方法】 成績評価の方法 年度末試験によって評価するが、授業の進行をみてレポートを課す場合は、両者を総合して評価する。	【参考文献】 参考文献 T.パーソンズ『社会的行為の構造』（木鐸社） J.ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論 上中下』（未来社）			
【教科書】 伊藤、大関、小林、鈴木、竹内著『人間再生の社会理論』（創風社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代社会論		通 期	4 単位	原 田 達
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>まず「モダン(近代・現代)とは何か」から始めたい。 「現代社会」とは、きわめて特殊な社会です。と同時に、きわめて巧妙で狡猾な社会です。このことを、現代社会に張りめぐらされた「知と心情の編成」という視点から迫ろうと思います。 今きみたちが生活しているこの社会はどのような社会であるかを知ってもらいたいと思います。そのためのお手伝いをしたいと思っていますが、ただぼくが解説できるのは、せいぜいこの社会の「社会学的な特徴」だけです。ですから「政治学」や「経済学」などの講義をあわせて履修することをお奨めします。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>まず、現代の消費文明の特徴について考えてみたい。そのための材料としては、デパートやパレード、ポスター、テーマ・パーク、ファッションなどを取りあげたい。 現代社会を分析するための理論的方法は、演劇的社会空間論をもちいる。そこで、劇場、演技、演出、俳優、背景、観客、照明、スポットライト、大道具、小道具、メイクアップ、黒子などの演劇用語を主要な分析視角として使用する。 さらに、現代社会の精神分析学にいたることができれば、と思う。分析の対象が現代社会そのもの、精神分析医はきみたち。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験をおこなう。思い出したようにレポートを課すかもしれない。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義のなかで指示します。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
家 族 社 会 学		通 期	4 単 位	菰 渕 緑
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問直す。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。</p> <p>なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の本質—家族とは何か 2. 非典型的家族の存在に見る家族のあり方 3. 家族と文化 4. 家族の構造と機能 5. 家族の変遷 6. 家族における社会化とパーソナリティ 7. 家族の内部構造—勢力構造と役割構造 8. 諸外国における家族の実態 9. 家族の将来像—家族政策および家族福祉の視点から 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>筆記試験によって評価する</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>清水 由文・菰渕 緑 編 『変容する世界の家族』 1999年 ナカニシヤ出版</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>未 定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
村落社会学		通 期	4 単 位	清 水 由 文
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>第2次大戦後日本の食料自給率は経済成長とは逆行して漸次低下し続け現在では30%台である。そのような食料問題は現代日本における重要課題の1つである。その問題は日本の農業の変化と食の多様化、欧風化への変化という2つの側面から明らかにされる必要がある。そこで日本の農業・農村がどのように変化したのかを食の変化と関係づけて検討し、さらに農業を環境の視点からも明らかにしたい。また後半では日本の農民あるいは農家はどのように生活してきたのかという視点から検討してみたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>[前期] 1. 戦前の日本農村の特質 2. 農地改革の特質と意義 3. 戦後日本農村の変化 4. 新食糧法の特質と問題 4. 食の高度成長 5. 食の多様化 6. 環境からみた農と食 7. グリーン・ツーリズム</p> <p>[後期] 1. 伝統的家族としての「家」 2. 日本農村における家族の現状 3. 日本農村の親族組織 4. 日本農村の村落の特徴と現状 5. 日本の村落の地域性 6. 日本の村落の組織と運営</p> <p>なお以上のようなテーマに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしていきたい。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>年度末の試験と年間2回のレポート、講義中の小レポートの総合評価による。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>随時紹介する</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>使用しない</p>				